



巻頭言－2017

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会の
成立と今後

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会
理事長 小玉 正智

同門会の先生方におかれましては、益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

外科教室は、本年（平成27年）に開講41年目を迎えます。外科学講座が統合され、臓器別診療科(消化器外科、乳腺・一般外科、心・血管外科、呼吸器外科)に分かれて診療を開始し、2つの講座の同門会は合同して一本化の計画が進み、世話人会で会長に岡田慶夫名誉教授、副会長に私が選ばれ、第一回外科合同同門会が平成15年1月に開催されました。それ以来、谷徹教授（現在特任教授）と浅井教授が一年ごとに交代で企画をいただき担当教室の先生と秘書の方々の温かい支援で、同門会は、年一回の新年例会・講演会・懇親会を開き、同門会誌、同門会員の住所録の発刊、慶弔の連絡、掲載論文の表彰など一応の役割を果たしてきました。

平成16年から臨床研修制度が開始され、大学病院での卒後研修医の数も制限され、それ以後大学の各医局への入局医師が減少し、大学の医局で支援していた地域の病院が維持できずに医療崩壊したことはご承知の通りです。また臨床研修制度に伴い、全国的に外科医の希望者が激変し、現在も低迷しています。

このような状況下で、医師としての生涯教育の必要性、会員の更なる支援や交流、関連病院と教室間の交流、外科教室への経済的支援、外科医希望者への啓蒙活動などを目的に同門会の法人化を進めてきました。数年間の準備をして、やっと平成25年3月に法人格を取得して、すでに2回の定例総会が開催されています。

谷真至教授が平成26年8月に消化器外科、乳腺・一般外科の教授に就任され、新しい教室作りが着実に進んでいます。早速、今年の担当世話人として活躍していただき、理事会で検討し同門会誌の企画変更を行っています。各委員会は活動が開始されており、本会誌に報告されていますので、ご意見をいただければ幸甚です。

今年から外科の専門医制度、および医療事故調査制度が新しく開始されますので、各施設は準備が必要と思われます。

外科同門会が、法人化できましたが、まだ課題が多く今後会員の御参加とご支援をいただき、充実した同門会に発展したいと思いますのでよろしく願いいたします。



地域に支えられ世界を目指す

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学外科学講座（心臓血管・呼吸器）

教授 浅井 徹

2016年1月は、私にとって15回目の滋賀での正月になります。様々な事情で、満40歳と若輩で浅学菲才な私を外科学講座第二の教授として迎えてくれた滋賀医科大学は、国立大学医学部としては大変なばくちを打ったものだと学内外から思われていたと回想します。あれから、あつという間の14年でした。ひたすら全国に恥じない教室をと思いつつ、今もって皆さんがよりそう同門会、教室としては足りないことだらけであることは隠しようもありません。

その当時の学長は吉川隆一先生でしたが、金沢へも足を運んで熱心なご説得をいただきました。彼が本学の理想としてかかっていた言葉に私の好きなものがあります。「地域に支えられ世界を目指す！」ということです。外科は極めて患者に近い診療科で直接生命に深く関与する心臓血管病や癌を対象とします。普通の人がふだんあまり考えることのない自分の生死をいわば正面から見据え何とか助ける診療科であると思います。その責任は大きく、手術の良し悪しはもちろんのこと、本当に長期にわたって患者一人ひとりに恩恵をもたらすのか、研究は自分たちが信じていることがはたして確かな根拠に基づくか否か、基礎研究自体が未知の領域に光を照らし日々の臨床に還元できるのかなど、多くの重要な疑問と向き合わねばなりません。逆に、何とか助け劇的に健康を回復され不安が薄れ手術したことまで普段の生活で考えないようになった患者さんとお会いして初めてこの領域で頑張ってきてよかったと日々の疲れから解放されると私自身思っています。滋賀医大外科学講座は谷教授とともにどこにも負けない最高のハートをもった外科医をはぐくみたいと考えています。

着任翌年にサンフランシスコの総会でライフワークの心拍動下冠動脈バイパスで Award を受賞した国際低侵襲心臓胸部外科学会 ISMICS (International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery) で業績を認められ、その学会の Board Director をここ数年つとめてまいりましたが、昨年の執行会議で、Winter Workshop の日本京都への招致に成功いたしました。本年2016年10月28日29日の2日間ウエスティン都ホテルにて日本のみならず各国の外科医を迎えて私たちが培ってきた世界で通用する未来に通じる外科学を学ぶ会にしたいと考えています。国際学会主催はもちろん全国学会すら主催の経験はありませんが、滋賀医大が世界に誇れる外科として、今後も皆さんのご理解ご協力を賜りながらさらに進化し続ける外科学講座として精進してゆきたいと思っております。



巻頭言

滋賀医科大学

バイオメディカル・イノベーションセンター

特任教授 谷 徹

春や秋の訪れをほとんど実感しなかったような気がする近年の気候は、小さい頃から慣れ親しんだ季節感とは違う場所に来たような気がする今日この頃です。

私自身リタイアして一年が経ち、その仕事内容の変化および職場環境の変動に身体的、精神的にかなり影響をうける一年でした。本来仕事が減ると期待していたにもかかわらず自分で行う仕事が増え、現役の頃と同じように過ごす毎日です。しかしながら現役の頃とは違い、行う内容は自分が決め、その達成度もゴールも自分の判断で出来る極めて自分中心の環境となりました。今思えば現役の時はこのような合目的な仕事内容は極めて少なかったように思われます。

改めて現役時の仕事環境を今、現役でいる先生方が思いきって変えて、自分の思うところを存分にじっこうすべきだと思っております。

その理由の一つとして、医療環境が極めて不安定な時代であり、政府の方針は医科大学を新設する一方で医者の数を減らす方針を出し、ベッド数を減らす方針が進められたりしています。政府の方針を明確に解析することが極めて困難で、現場の医療関係者はこれからの医療の進め方は近未来的には自分たちで判断し、計画を立てて進めていく時代が到来していると考えます。同時にグローバル化が叫ばれている一方で様々な支援が大学から削減されている現実を目の当たりにして、今まで医療人としてあまり条件の悪さにクレームを言わない多くの先生方が、今までは医療または医療界に身を投じて来ました。しかし、今のままでは優れた若い先生の能力開発や、仕事環境が十分に準備できないことになるのではないかと心配する次第です。

特にこの文章を書いている間に TPP 交渉が 12 ヶ国間で妥結しました。内容の詳細はわかりませんが、サービス分野での市場開放が当然あると考えられ、医学教育、医療サービスは海外との競争が待っていると考えるのが当たり前です。このように優れた医療関係者でさえ、持つ力を存分に発揮して対応するべき状況にあると考えるからであります。

新年会で皆様にお会いしますが、今の現場医療に対する情報をお互いに共有して、スクラムを組んで日本の医療を守り、外科の労働環境を改善していくことが大切と考えます。

簡単ですが、巻頭言とさせていただきます。



巻頭言

一般社団法人滋賀医科大学外科同門会 理事
滋賀医科大学外科学講座 消化器外科 乳腺・一般外科

教授 谷 眞至

平素は滋賀医科大学外科学講座(消化器外科 乳腺・一般外科)の活動にご理解ご協力をいただき、誠に有難うございます。皆様方から信頼いただけると共に新しいことを発信できる教室となれますよう尽力する所存です。

この同門会誌が発行される頃は寒い季節になっていると思われませんが、2015年の夏は本当に暑い日が続いていました。そのような夏にふさわしいスポーツのひとつに水泳がありますが、世界水泳選手権のシンクロナイズドスイミングがモスクワで開催され、日本は全7種目のうち、4種目で銅メダルを獲得したことはまだ記憶に新しいと思います。過去、日本のお家芸ともいえる競技であったシンクロナイズドスイミングですが、最近はずっとせず、オリンピック出場も危ういとまで言われていたようで、立て直すため井村雅代氏が昨年より日本代表の指導を再開し、見事短期間で実績を築かれたことは素晴らしと思います。

井村氏が就任したチームは井村氏の考える世界と戦える選手としての基準からも大きく下回っており、チーム全体は仲良しクラブのようにしか映らなかったといえます。鍛え抜かれていない体、他の選手がミスしても何も文句を言わない風景に見え隠れする無責任さ(他人に何か言えば自分自身の責任が生まれるため、それを回避しようとする姿勢)や勝負への執念の薄さ、そこに井村氏は復帰直後、代表候補選手として並んだ選手たちを見て「とてもアスリートとは言えない」と感じたそうです。厳しい練習(とはいっても、以前の日本代表からすればスタンダードとも言える練習量だそうですが)の再開に、2人の選手が「ついていけない」と代表を離れるほどだったそうです。

練習で厳しさを貫いたこと ― それによって選手たちの意識や姿勢に変化があったからこそ、今回のメダル獲得につながりました。

消化器外科 乳腺・一般外科におきましても、個々が協力し助け合うとともに、単なる仲良しクラブではなく、お互いが切磋琢磨できる場となる、そして、ひとりひとりが活躍できる、とくに今後を担う若い世代の医師がのびのびと活躍できるよう、教室全体で一致団結して前に進んでいければと考えておりますので、更なるご指導を賜りますようお願い申し上げます。



一般社団法人 滋賀医科大学外科同門会
同門会賞受賞にあたり・・・

医療法人 日野記念病院 内藤 弘之

2015年1月、滋賀医科大学外科同門会において Gastric Cancer に掲載された「Stratified phase II trial to establish the usefulness of the collagen gel droplet embedded culture-drug sensitivity test (CD-DST) for advanced gastric cancer」に対して同門会賞というとても名誉な賞を頂いた。内容は、進行再発胃癌症例に、抗癌剤感受性試験の結果に基づいて有効な薬剤を投与した群が、無効な薬剤を投与した群より1年生存率、TTP が良かった、とさほど難しいものではない。この半年後に JACCRO-GC04 で stage II, stage III の胃癌症例で S-1 を1年間投与し、CD-DST で S-1 高感受性群が S-1 低感受性群より生存率が良かった、との結果が出て、我々の胃癌治療における CD-DST の有効性を後押しする結果となった。

さておき、今回の論文でこのような名誉な賞を頂いたのはこの上なく嬉しい限りだ。しかし、小生なりに自分を褒めてやりたいのは IF がもっとも高い論文であった、ということではない。3点に集約してみる。

①、多施設共同臨床試験であること： 2004年9月からプロトコルを作成始め、滋賀県内の20施設に賛同頂き2006年3月より登録開始。多施設共同臨床試験など全く初めての体験で、まわりにも経験者はおらず。全く無からのスタートで大変苦労した。

②、日野記念病院赴任： 軌道に乗り始めたころの2007年4月、日野記念病院に着任、2人の外科医で初年度食道癌3例、PD2例、胃癌28例、大腸癌11例、肝切除4例、など全麻139例、全手術220例、翌年度には食道癌3例、PD1例、胃癌30例、大腸癌20例、肝切除3例、など全麻154例、全手術247例に及んだ。副院長という立場、感染委員会、安全管理部などの各委員会の責任者など雑多な仕事が目白押し、その中で多施設共同臨床試験の継続など無理だと疲弊したことが幾度となくあった。

③、データ解析、論文作成： 目標140例であったが、2009年3月31日、118例の登録で2010年4月中間解析を行う事とした。しかし症例報告書が集まらない。なんとか症例報告書の提出を、と幾度となくお願いした。ここで最も無駄な時間を消化してしまった思いがする。データを何とか回収し、解析をしていくうちに想定以上のいい結果でときめいたことを鮮明に記憶している。何とか形にしないと協力してくれた先生方や秘書、実験助手の方々、このために CD-DST をメディックに教えて頂いたラボウの小林先生、メディックの井上先生に顔向けできないと。コツコツと論文作成、添削を経て、ようやく2012年11月、British Journal of Cancer に投稿した。何回かやり取りしたが reject。S-1 が英国はもとより胃癌治療において欧米諸国で受け入れられていないという如何と

もし難い理由であった。そして Gastric Cancer に投稿、2013年11月24日に「We are pleased to tell you that your work has now been accepted for publication in Gastric Cancer.」というメールが届いたのである。

小生にとって①②③の一連のことに約10年の歳月を費やし、ひとつの形にすることができたのは、協力頂いた方々に少しでも恩返しを、の一念に尽きる。自分を褒めてやりたい点はここだ。

今後も滋賀医科大学外科同門会の一員として、滋賀県の地域医療、滋賀医科大学の発展に尽力する所存である。

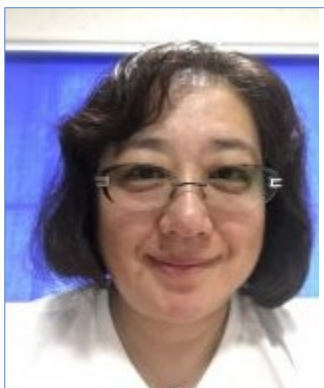
.....

滋賀医科大学外科学講座（心臓血管外科）

准教授 鈴木 友彰

滋賀医大心臓血管外科浅井教室が、およそ12年間に渡り一貫して行ってきた両側内胸動脈と胃大網動脈を使った Off-pump CABG の遠隔期成績が世界に認められ始めている。遠隔期生命予後改善、心イベント回避を目的とする CABG において、どういった CABG モデルが最も優れるのかを早い段階から洞察し、10年以上の成績を出すことで証明した。

特に浅井教授は、胃大網動脈の使用に関しては日本の第一人者であり、本論文は世界で初めての Skeletonized GEA の遠隔期開存率を正確に示した点で、その価値を認められた。少しずつ世界で、浅井教授の CABG が認められ、ガイドラインにも盛り込まれるようになってきている。



2015年同門会奨励賞受賞

きづきクリニック 院長 木築 野百合

今回評価いただいたのは外科学会誌に掲載された特別寄稿「女性外科医の子育てと仕事の両立－病後児保育の事業実践を通して感じること－」の論文です。論文作成の半年前に東京女子医大で行われた女性外科医会の勉強会に「病後児保育の実践について」のテーマで発表したのですが、女性外科医会の富澤先生（会長）より内容を論文にまとめるようにと助言いただき、形にしたものです。外科学会全体としても、外科だけでなく、日本医師会全体としても女性医師のワークライフバランスについては話題となり、いろいろな試みが発表されつつある昨今、病後児保育の事業実践についての論文が取り上げていただけたのはこれからの女性医師の働きに大きな意味を持つと思います。女性医師がキャリアを継続する上で欲しい支援として、院内託児所や病後児保育をあげる回答が多い（日本外科学会女性外科医支援委員会のアンケートなど）なかで、支援を求める受け身の立場だけでなく、支援を提供する立場としての工夫や展望を発表したことが評価されたと思っております。実際私が提供している病後児保育は一般市民の働く女性のためのもの（市の委託事業のため）ですが、ここから発展し、女性医師、あるいは男性医師も含めての子育て支援に寄与できるように、提言していきたいと思っております。

日常診療は開業医として、大半は内科疾患、内科的治療の合間に、外科的疾患の検査、診断、外科への紹介につなげる患者さんの掘り起こし（胃癌や乳癌の検診、診断、紹介）が外科医としてのわずかな医学貢献です。しかしながら、女性患者さんのニーズは女性医師による診察、検査、治療を希望されることが多くなっているのも実感として大きいです。そのニーズに応えるためにも、女性外科医は結婚、出産、子育て、を経験中においても、経験後でも、診療の場で、継続して、外科医の仕事ができるように工夫すべきです。社会が、そしてわれわれ外科医自身が、子育て支援を理解し、提供する側に関与すべきであると思えます。

今回奨励賞をいただいたことで、あとに続く、女性外科医の先生方のワークライフバランスの改善、意識改革に寄与できればと思います。ここから、また、同門会だけでなく、滋賀県全体、日本全体の先生方のために、女性外科医の生き様を発信していきたいと思えます。

ご評価ありがとうございました。

「第一回外科女の会を開催して」

滋賀医科大学 外科学講座 乳腺・一般外科

医師臨床教育センター

特任講師 梅田 朋子

現在、外科同門会における女性医師は28名、総会員300名中9.3%という状況です。また滋賀医科大学での女子学生の割合は35%、研修医では40%です。滋賀医科大学の消化器外科 乳腺・一般外科の病棟では、私を含めて6人の女性医師が常勤で働いていますが、統計的に女性医師の中でも外科女の割合は約2.6%（2004年厚生労働省）と希少です。

私達「外科女の会」の活動は、そんな現状に一石投じるべく同門会の支援を受け発足しました。興味はあっても、外科という仕事は将来設計の中で選択しにくいのではないかと、実際に外科で働いている女性医師をロールモデルとして紹介できれば、もっと外科で活躍する女性医師を増やせるのではないかと。実際の不安や悩みを論じる場になればと、木築 野百合先生と共に2015年5月30日ピアザ淡海にて「第一回外科女の会」を開催しました。

参加者は同門会員12名、学生9名（2回から6回生、うち男性一人）と研修医4名（1年目1名と2年目3名）でした。大阪からは山本理江先生が、また呼吸器外科の片岡瑛子先生もかけつけてくださいました。「外科男」として、医局長の清水智治先生と新田信人先生にもご協力いただきました。湖の見えるきれいな茶室で、まず各自の名刺を作成し、乾杯の後、美味しいお弁当等をいただきながら会談を行いました。



外科医にもいろんな分野があるということで、様々なフィールドでご活躍の同門女性医師3名に外科医としての仕事と生活などについてご発表いただきました。滋賀医大の4D病棟で消化器外科医として活躍中の北村直美先生。同じく滋賀医大のICUやERで活躍されている松下美季子先生。開業され、最近外科学会誌にも女性医師支援の論文を執筆された木築野百合先生の3名です。「外科女」とひとくくりにしても様々で、活躍の幅が広いという印象を受けました。その後は全員の自己紹介をかねての大質問大会なり、仕事と出産、家庭、恋愛相談まで現実に沿った具体的な内容を大いに語り合いました。3名の「外科男」には女性医師の本音を暴露し、驚かせてしまう一面もありましたが、幸いご参加いただいた同門会員も経験豊富な先生が多く、外科女の会にふさわしい内容になりました。

滋賀医科大学を見ますと、女性医師が多く在籍する医局には、女性の入局者が多いように感じます。結婚・子供・介護者の有無など多様な状況の中、様々なライフステージにおいて、女医がどのようにすれば仕事と向き合い、楽しく充実した人生を送ることができるのか。決まった答えがある訳ではありませんが、将来活躍を期待する後輩女子達に対して、経験を伝えることで自分自身についても考え直すことができます。このような同門女性外科医師が団結することから、一步一步ではありますが、同門女性医師の増加や同門会の発展につなげていければと考えています。同門会のご支援に感謝すると共に、今後ともご指導の程よろしくお願いたします。

独立行政法人 地域医療機能推進機構 滋賀病院

〒520-0846 大津市富士見台 16-1

電話 077-537-3101

来見 良誠 (昭和 56 年卒)



地域医療機能推進機構 滋賀病院（通称：JCHO 滋賀病院）は、昭和 28 年に健康保険滋賀病院として開設され、社会保険滋賀病院として永く親しまれてまいりま

したが、平成 26 年、厚生労働省が管轄し、独立行政法人地域医療機能推進機構が直接運営する JCHO 滋賀病院となりました。病床数は 325 床でさらに介護老人保健施設 100 床を併設しています。

24 診療科目を標榜しており、特に人工透析は昭和 44 年に滋賀県内で最初開設され、現在も 50 数台ある透析機器は常時稼働しています。

JR 石山駅から徒歩 20 分の位置にあり、琵琶湖が真正面にみえる小高い丘の中腹にあり、特に琵琶湖と三上山（近江富士）が同時に見える病棟からの風景は絶景です。

外科（消化器外科・一般外科）は開設当初より、京都大学外科の関連施設として 3 名で診療されており、昨年手術症例は約 250 例くらいでした。本年 7 月より私を含めて 5 人体制になり、現在では外科診療は京都大学と滋賀医大の合同チームでおこなっています。

消化器内科は滋賀医大から派遣されており、年間の内視鏡症例は、上部消化管約 5,000 例、下部消化管約 2,000 例がおこなわれており、症例は豊富です。健康管理センターも併設しており、健診から治療・介護まで継ぎ目のない体制となっています。

外科専門医、消化器外科専門医の認定施設となっているので、外科の初期研修・後期研修を通じて、専門医の育成をおこなっていきたいと思います。また、滋賀医大とも非常に近く、総合診療の研修体制も整っており、滋賀医大の機能を補完できる病院になるよう現在全ての診療科の整備をおこなっています。

当院の周辺にはいくつかの病院があり、急性期のみを対象とする病院と慢性期のみを対象とする病院に分かれています。当院は今後急性期の専門診療を主体とした病院であると同時に、地域医療機能推進機構という名前が示すように、地域に根ざした診療のできる体制も導入しようと考えています。滋賀医科大学外科同門会における専門医育成施設として貢献したいと思っています。

長浜赤十字病院

外科部長 塩見 尚礼



長浜赤十字病院は伊吹山のふもとの長浜市、羽柴秀吉が長浜城の城下町として整備した中心市街に位置し、大学からは高速を使って約1時間、80kmの距離にあります。人口約16万人の滋賀県湖北医療圏（長浜市と米原市）にある504床（一般病床430床、精神病床70床、感染症病床4床）の基幹病院です。

スタッフは塩見尚礼、中村一郎、丹後泰久、東口貴之の4名が滋賀医科大学から派遣され、福井大学からの3名と合わせて7名で通常外科診療のみならず、救命センター、腎透析センターを切り盛りしています。

救命救急センターでは断らない救急医療をモットーに南は彦根市、西は高島市からも患者が搬送されてきます。2014年の患者総数は24470人、ヘリコプターも含めた救急車両搬入は3962件、うち外科入院患者は665人でした。「災害医療の日赤」と言われる通り、地域災害医療センターとして、DMATだけでなく、独自の救護班を組織しています。年に1回、大規模災害訓練を病院あげて行っており、起こるかもしれない災害に備えています。

一方癌領域では滋賀県地域がん診療連携支援病院として、質の高い外科治療を行うだけでなく、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、癌地域連携クリニカルパスの運用、カンサーボードの開催などに関与しています。

2014年、手術室で施行した手術件数は834例で、うち全身麻酔手術は492件、緊急手術は162件でした。内訳は胃癌切除63例（うち腹腔鏡下20例）、大腸癌切除82例（同51例）、肝切除8例、膵切除10例、乳癌手術36例、胆嚢摘出術92例（同75例）、虫垂切除術61例（同2例）、成人ヘルニア手術100例（同5例）、小児ヘルニア25例、肛門手術70例でした。鏡視下手術にも力を入れており、若い外科医が研鑽を積むのに十分な症例数があると思います。腎透析センターでは血液透析52例、腹膜透析23名の維持管理を行いました。

長浜市は昔から住みやすい町と言われています。その理由の一つとして人口に比して急性期病院が2つもあることがあげられています。また市内には長浜城、慶雲館、竹生島などの歴史的文化的遺産に加えて黒壁スクエアにみられる街おこしの成功で県内最大の観光都市です。是非一度足をお運びください。そして一緒に働いていただける先生が増えますことを切望しております。

東近江総合医療センター

副院長 目片 英治



(写真1)



(写真2)

私は8期生で同門の先生方には、平素より大変お世話になっております。2015年6月16日付けで、滋賀医科大学総合外科学講座の教授に就任し、7月1日付けで東近江総合医療センター 副院長として着任いたしました。また当院では新米ではありますが、東近江総合医療センターの紹介をさせていただきます。

当センターは、東近江市の中心部から東方約4km、写真のとおり名神高速道路および八日市ICに隣接しており(写真1)、医師の多くは車、高速道路通勤をしております。平成25年春に7階建ての新病棟が完成し、1階が放射線・内視鏡検査部門、2階は5つの手術室、大会議室(きらめきホール)、5つの病棟(HCU、2階東は旧館)からなります。7階には結核病棟があり全て陰圧・個室となります。結核病棟以外にも感染症対策として各階に2床の陰圧・陽圧切り替え可能な個室があるなど、県内の他病院にはない機能を備えています。また、各病室はゆとりある設計で、さらに上方階の病棟では広く広がる田園風景を望むことができ、患者さんからは、気分が癒やされると好評です。200人収容規模の大会議室では、地域医療機関との情報連携に用いるTV会議などのITネットワークが整備され利用しています。また滋賀医科大学のD棟1階の多目的室と当院の大会議室をIT回線で結び、医大で行われるセミナー、当院で行っているCPCをTV会議システムで相互方向のコミュニケーションができる体制が整備されています。

平成27年9月現在、医師数は43人、多くは医大から派遣していただいております。初期研修医、後期研修医の先生と共に仕事ができるため、日々若い力を感じながら診療を行っています。

教育面において、平成24年4月より滋賀医科大学地域医療教育研究拠点(写真2)として研修医、学生実習生を受け入れています。当院では医大で経験する機会が少なくであろう一般疾患から急性腹症、交通外傷、さらに専門的ながん疾患の外科治療から臓器横断的な抗がん剤治療、がんの緩和医療を、限られたスタッフでこなさなければなりません。地域の中心的な医療機関の機能を果たしつつ、さらに幅広い教育ができる病院として、スタッフ一同、日々精進、自己研鑽しています。

また、当院の敷地に隣接して東近江医師会があります。月例会へ出席することで、病院と医師会の関係を密なものとし、院内で行われるCPCやセミナーに医師会の先生方も参加いただくなど、交流を深めております。また医師会と共催または後援のかたちで市民公開講座や臨床談話会を行ない、市民に開かれた医療をアピールしつつ、東近江医療圏の医療関係者の生涯学習の場として最新の医療情報をご提供できるようスタッフ一同レベルアップを目指しています。

同門の先生方には、今後とも多方面にわたりご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い致します。



はえうち診療所

<http://www.za.ztv.ne.jp/haeuchi-clinic/>

〒520-2153 滋賀県大津市一里山4丁目25-21

電話 077-543-3861

院長 生内 一夫 (滋賀医大 昭和60年卒)

大腸肛門専門施設をめざして

(診療について)

1999年10月に瀬田で開業し17年目となりました。当初は症例も少なく、介護事業や訪問診療、整骨院のまね事など特徴のない診療を行っておりました。芝上の英国紳士のスポーツには縁がなく、週末には四十の手習いよろしく大腸肛門疾患の勉強のため各地の学会や研究会に、平日には大腸肛門専門病医院の見学に行きました。現在、大腸肛門病学会認定施設である滋賀医大の関連施設として登録していただき、連携を取りながら診療を行っております。年十数例の悪性疾患を発見し、ほぼ全例大学で手術をしていただいております。肛門手術、内視鏡をそれぞれ年間約150例施行、最先端の標準診療を目指しております。大腸肛門を中心とした外科診療所として診療の幅をさらに広げていきたいと思っております。

(学会、研究会活動について)

学会や研究会には積極的に参加し、可能な限り発表するよう努めております。今年度は近畿外科学会、日本大腸肛門病学会で発表いたしました。分子神経科学研究センターでMRIの実験をしていた関係で、大学のIV-MRI装置を用いた内痔核のダイナミック撮影をさせていただき、ALTA療法研究会で発表いたしました。役職に就くということは考えてもいなかったのですが、早期にALTA療法を導入したため、ALTA療法研究会の世話人に最年少で指名されました。10年間無事に勤めさせていただきましたが、大変勉強になりました。多くの先生方にご指導いただき、昨年には滋賀県初の日本大腸肛門病学会IIb領域(肛門科)専門医を取得することが出来ました。さらに指導医を取得するべく準備中であります。

(教育活動について)

内痔核治療法研究会のALTA療法見学指定施設に指定され、見学していただいております。また救急隊員初任者講習や製薬会社社内研修、一般向けには小学校保健研修会や市民講座等も行っております。大学関係ではこれまで臨床教授、クリニカルインストラクターとして診療所実習や大学病院での病院実習に参加してまいりましたが、本年度から光栄なことに非常勤講師として母校の教壇に立つことになり、肛門疾患の講義をしております。他大学で講義をされておられる先生方と相談しながら準備を進めてまいりました。ガイドラインに基づいた診療の基礎から最新の治療にいたるまで、さらに国家試験にも対応し、興味を持てるよう改善していきたいと思っております。



ニューヨーク州バッファロー
ロズウェルパーク癌センター外科
免疫療法部門

伊藤文人（平成7年卒）

滋賀医科大学第15期生、当学外科学第一講座1995年入局の伊藤史人です。1年間の滋賀医科大学病院での研修期間を経た後、京都第一赤十字病院にて2年間勤務、1998年に滋賀医科大学病院に戻りました。外科研修医として多くの手術を執刀する機会に恵まれ、忙しくも充実した日を送りましたが、その一方で、根治的手術を施行したにもかかわらず、再発、転移を起こす症例を経験し、忸怩たる思いを抱きました。当時一般的に施行されていた進行癌に対する拡大リンパ郭清を含む手術のみでは根治性に限界があることを感じ、より効果的な術前術後療法を取り入れた集学的治療に興味を持ち始めました。

私に転機が訪れたのは研修医4年目の秋でした。米国医師国家試験(USMLE: United States Medical Licensing Examination) Step 1, 2CKに合格していたことがきっかけで、小玉教授からミシガン大学外科学講座のGreenfield主任教授を御紹介頂き、移植外科、腫瘍外科を2ヶ月間見学する機会に恵まれました。当時日本の医療界で普及し始めていた根拠に基づく医療(EBM: Evidence-based Medicine)が日々の診療に実践されているのを目の当たりにし、大変貴重な経験をさせていただきました。その頃から入局当初は殆どなかった研究マインドが芽生え、1999年に滋賀医科大学大学院に入学致しました。病理学講座（小笠原一誠教授）にて1年間免疫学の基礎を教えていただいた後、ミシガン大学腫瘍外科学講座（Alfred E. Chang 教授）に博士研究員として約3年間留学しました。その後、留学中に従事した活性化T細胞を用いた養子免疫療法の研究にて2004年に滋賀医科大学より博士(Ph.D.)の学位をいただきました。この私の留学希望を快諾してくださった小玉正智、谷徹両先生に大変感謝いたしております。

基礎研究に携わりながらも米国で臨床をしてみたいとの思いは捨てがたく、卓越した技術、的確な決断・判断力を持ち、新たな治療を創造する Academic Surgeon を目指し、ECFMG certificate を取得後、米国外科レジデンシーに出願しました。レジデント、腫瘍外科フェローになるまでの過程は「外科診療に見る医学留学へのパスポート」（日米医学医療交流財団）に寄稿する機会に恵まれましたので、もしご興味のある方は参考にいただければ幸いです。

2010年に米国臨床トレーニングを終えた後、幸運にもミシガン大学外科学講座でスタッフのポジションを得ることができましたが、就労ビザ等の手続きが遅れ、1年近く日本で待たされることになってしまいました。ビザを待つ傍ら、ミシガンに戻ってから始める研究テーマを模索していたところ、京都大学iPS細胞研究所で、iPS細胞分化誘導、維持培養の実技トレーニングが行われていることを知りました。iPS細胞に関しては殆ど知識もなく、腫瘍免疫学とは全

く関係のない分野だと思っていましたが、好奇心に駆られて参加しました。3日間のトレーニングはとても楽しかったのですが、その後の私に最も影響を与えたのは、休み時間にふと目に留まって読んだ1本の論文でした。免疫細胞からiPS細胞を作るという内容の論文だったのですが、その中の一つのデータからヒントを得て、癌免疫療法に役立つかもしれない新しいアイデアを思いつきました。

その後、頭の中ではアイデアは膨らむばかりでしたが、わずか3日間のトレーニングでミシガンに戻って、幹細胞の研究が一人で始められる自信もなく、どうしたらよいかと考える日々が3ヶ月ほど続きました。そんな中、再びミシガンから手続きがさらに4ヶ月ほど遅れるとの連絡があり、意を決して京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥先生にメールし、研究室で勉強させていただけないかとお願ひしました。当時は、同研究所がiPS細胞の作成で世界に先駆けて特許取得を目指しておられた頃で、海外に戻る研究者を同じ研究室に受け入れていただくのは無理だろうと思っていましたが、意外にも翌日にお返事を頂き、2日後に面接、1週間後に受け入れていただけることが決まりました。

iPS細胞研究所では沖田圭介先生に御指導いただき、免疫細胞からのヒトiPS細胞の樹立、維持に関する技術のみならず、最新の知見、今後のiPS細胞を用いた研究展望などについてご教授頂きました。それによって自分のこれまでの専門分野を超えて見聞を広めることができた非常に有意義な機会となりました。iPS細胞研究所で過ごした期間は短かったものの、私にとって以前ミシガン大学で3ヶ月見学したときと同じく、新たな人脈を構築し、将来の方向性を考え、モチベーションを高めるを貴重な時期であったと考えています。突然の無理なお願ひを快諾していただき、大変貴重な機会を与えて下さった山中、沖田両先生の懐の深さにただただ感謝するばかりです。

無事にビザが発行され、2011年7月からミシガン大学外科学講座にて働き始め、臨床、研究、教育に従事することになりました。臨床では以前のビザの関係でミシガン大学附属退役軍人病院(Veterans Hospital)にて一般外科、腫瘍外科を担当し、研究ではミシガン大学癌センターにてiPS細胞を用いた癌免疫療法のプロジェクトを開始しました。すぐには結果は出なかったものの、2013年にマウスモデルを構築して以来、少しずつ学会発表する機会が増え、幸いにしてこれまでにNIHを含む4ヶ所から科研費をいただきました。その後、学会発表した際に私の研究に興味を持っていただいたロズウェルパーク癌センターの研究グループからお声を掛けていただき、2015年10月に同センター腫瘍外科学講座及び免疫療法部門に異動となりました。現在、研究室の規模を拡張し、新たにポスドク数名を募集しております。いつか、滋賀医科大学外科学講座の後輩と一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。

関連病院だより

三菱京都病院 山下直己
心臓血管センター金沢循環器病院 西村 修
京都医療センター 澤井 聡
エモリー大学 細羽 創宇

三菱京都病院 呼吸器外科
〒615-8087 京都市西京区桂御所町 1
電話 075-381-2111

山下 直己（昭和 58 年卒）

このたび三菱京都病院の呼吸器外科が滋賀医科大学外科学講座の関連病院になりましたので施設紹介をさせていただきます。

三菱京都病院は昭和 21 年 10 月に三菱重工京都製作所の福利厚生施設として京都市西京区に設立された企業立病院です。開設当時は結核診療が主なものでしたが、昭和 45 年に三菱自動車工業株式会社の附属病院となり、その後増改築を繰り返し平成 19 年 12 月に現在の急性期病院としての機能を完備した新病院が竣工いたしました。

当病院は京都市乙訓二次医療圏に位置しますが、この地域には 1000 床超の 2 大学病院はじめ 500 床以上の 7 病院があり、うち 2 病院が当院の半径 5Km 以内にひしめき合うといった急性期病院激戦地域であります。この中で病床数 188 床と中小規模ながら心臓血管外科、消化器外科、婦人科、整形外科、乳腺外科、呼吸器外科を中心に年間全麻件数 1000 件以上の手術をこなしております。当病院は以前より循環器疾患に力を入れており、ヘリポートも備え心臓内科、心臓血管外科ともに 24 時間体制で「断らない救急」を実践しております。

呼吸器疾患に対する外科治療に関しては、昭和 28 年に結核病棟が竣工されてから昭和 58 年までの 30 年間に結核に対する外科治療がなされたという記録がありますが、それ以降呼吸器外科手術は行われておりませんでした。平成 23 年に京都府がん診療推進病院に認定されたのを機に縁あって私が赴任し、呼吸器外科が復活したという次第です。当初は花岡 淳先生にご無理を申し、医局の先生方に週 1 回手術の応援に来ていただいております。平成 26 年呼吸器外科学会関連施設となり、平成 27 年 6 月待望の常勤医が一名増員となりました。新しく赴任された堀 哲雄先生は、手術のみならず化学療法や緩和療法にも興味を持ち、本年 12 月に新しく緩和病棟が開設されるに当たって腫瘍内科・緩和ケアチームなどとチーム医療を実践し、肺癌患者さんの診療に獅子奮迅の活躍で、病院からも期待されております。

今後とも同門会の皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

心臓血管センター 金沢循環器病院 心臓血管外科

〒920-0007 石川県金沢市田中町は 16

電話 076-253-8000

西村 修 (平成 17 年卒)

金沢循環器病院は平成 3 年に松窓会金沢循環器病院として開設され、平成 21 年より心臓血管センター金沢循環器病院と名称を改めて以来、今や北陸でも有数のカテーテル治療、心臓手術、カテーテルアブレーションを行っている病院です。365 日 24 時間受け入れ体制を敷き、当院への救急搬送はもちろん、大学病院や公立病院からの救急搬送依頼を受けることも多く、循環器診療において石川県内の地域中核病院の一つとなっています。

現在の病床数は 184 床であり、その内訳はハイケアユニット 10 床、一般病床 66 床、地域包括ケア病床 8 床、医療型療養病床 100 床となっています。急性期病床だけでなく、療養病床を設けており、長期療養が必要で継続して治療を行うべき患者の受け入れも行い、循環器疾患の有無に関わらない患者に対しても看護・介護ケア・リハビリテーションなどを実施しています。

2015 年 9 月現在での循環器に携わる医師は循環器内科 9 名、心臓血管外科 5 名であり、当科におきましては昨年度より 1 名の増員を行い、さらなる手術数の増加、緊急症例への対応を目指し、開心術だけで年間 100 症例を達成することができました。腹部大動脈瘤や閉塞性動脈硬化症などの末梢血管症例をあわせると年間 140 例ほどの実績となっています。また当院では、下肢静脈瘤治療も積極的に行っており、レーザー治療を始めた結果、以前までと比べて倍以上の手術数・外来患者数となっています。最近では、ハイブリッド手術室の設備投資を 2015 年 8 月ころから着手しており、ステントグラフト（現在も施行）だけでなく TAVI などの新しい症例にも対応していけるように体制を整えています。

金沢市は今年の 3 月に北陸新幹線開通となり、都市としてもさらなる飛躍の可能性を秘めています。町へ出てみると、東京との交通が便利になった分、人の行き来がずいぶんと多くなりました。飲み屋街としては駅前か片町という場所になりますが、新幹線効果により、お店によっては多少の値上がりがあるとかないとか。美味しく飲めるお店も多く、値上がりは期待しないところですが、住んでいていろいろと楽しめる町です。

金沢市の発展とともに、病院としてもさらに盛り上がっていただけるように、患者からだけでなく周囲の病院からも信頼厚く、頼りがいのある病院として、また 1 人の医師として邁進していきたいと思えます。

国立病院機構京都医療センター
〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町 1-1
電話：075-641-9161

澤井 聡（昭和 63 年卒）

当院は、39 診療科を標榜している高度総合医療施設として既に約半世紀にわたって京都伏見の地で医療活動を行っている病院で、国から内分泌・代謝疾患の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）、成育医療の基幹医療施設、がん・循環器・感覚器・腎疾患の専門医療施設に指定されており、エイズ診療、国際医療協力の機能も付与されています。また京都府から三次救急医療施設の指定を受けている 3 施設のうちの一つであり、更に平成 19 年 1 月には地域がん診療連携拠点病院に指定されました、と 2011 年の同門会誌の関連病院だよりで当院をご紹介させていただいて早 4 年が経ちました。前回の時は、呼吸器外科はスタッフ 2 人（元石、澤井）とレジデント 2 人（片岡、岡本）の 4 人体制でしたが、そのレジデント 2 人がスタッフとなり、その後、片岡先生に代わって賀来良輔先生が、そして今年、岡本圭吾先生に代わって林 一喜先生に赴任していただき、引き続き 4 人の体制で診療にあたっております。診療の特徴としては、呼吸器内科と同じ外来、同じ病棟で気管支鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡検査、CT ガイド下生検検査やカンファレンスも一緒に行っており、内科、外科の垣根が極めて低いことが挙げられると思います。従って、呼吸器内科疾患も十分に学べる環境にあります。

手術は水・金曜日で、去年は全麻 156 件、肺癌手術（診断を含む）82 件でした。残念ながら、ここ数年の手術件数は同程度で伸び悩みです。目標の年間 200 件、肺癌 100 件を目指して腰の痛みにも耐えながら頑張りますので、引き続き皆様のご支援をよろしくお願い致します。

追：昨年当院に da Vinci が導入され、当科でも手術を言われております。さてどうするかと悩んでおります。

私は 2007 年に滋賀医科大学を卒業し、滋賀医大病院で初期研修、後期研修をしました。滋賀医科大学助教を経て、2012 年 7 月よりアメリカ南部のアトランタにある Emory University にて adult cardiac surgery の clinical fellow をしています。

アメリカの臨床に興味を持ち始めたのは、学生時代に短期留学をしてからでした。6 回生の時に USMLE Step1 に合格し、その後は臨床をしながら試験を受け、医師三年目に ECFMG certificate を得ました。40 施設程に履歴書と personal statement を出し、返事を頂いた中から三つの施設で面接を受け、Emory University に留学することを決めました。

Emory の cardiothoracic surgery は研修施設として評価が高く、全米最大級のプログラムの一つとされています。Emory Healthcare というグループとして三つの大規模病院を持ち (1000-1500 open heart cases/year)、それらを中心に約 25 人の心臓外科レジデント/フェローのローテーションが組まれています。著名な外科医が数多く所属しており、特に経カテーテル弁治療、ロボット心臓手術、大動脈基部手術では全米有数の症例数を有します。

仕事が始まると、まず苦勞したのが現場の英語でした。それなりに英会話はできるつもりでしたが、医療現場の早い会話、電話での会話や南部特有の訛りに大変苦勞しました。最初は留学生活が嫌にもなりましたが、半年を過ぎた頃からようやく慣れてきたと思えるようになりました。

Hands-on の経験に関しては、チーフフェローが症例の割り当てを行うためその裁量によると、attending surgeon との信頼関係による部分が大きいと思います。私の場合は、英語でのコミュニケーション能力がある程度になった二年目ごろより少しずつ執刀させてもらえるようになり、三年目には希望の症例に手洗いしたり、attending に指名を頂いたりすることが多くなりました。また経カテーテル弁治療の経験を積めたことや、robotic surgeon certificate を得たこと等の貴重な経験ができました。現在四年目からチーフフェローのポジションを頂き、手術だけではなく組織のマネジメントも学ぶ機会があります。また退役軍人病院の department を取り仕切る機会があり、現場責任者として科を運営すること、イラクやアフガン戦争後の軍人の生き様を知ること等、社会勉強になることも多くありました。また Emory では基礎、臨床における研究活動も盛んで、アメリカ胸部外科学会をはじめ数々の学会発表を経験でき、4-5 本の論文や著書を執筆する機会を頂きました。

今年で卒後 9 年目になり、心臓外科医としてのキャリアはアメリカの方が長くなりました。現在まで約 700 例の開心術をアメリカで経験し、その半数ほどは執刀医として関わりましたが、心臓外科はいつまで経っても難しく、その奥深さを日々感じながら臨床に打ち込んでおります。時代の流れもあってか心臓外科医が必要とされる場所は日本に少ないと感じながらも、安全に責任を持って手術ができ、社会に必要とされる外科医を目指して取り組んでいこうと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった浅井先生、ご指導頂いた外科学教室の諸先生方に深くお礼を申し上げます。

新入会員紹介

心臓血管外科

坂倉 玲欧

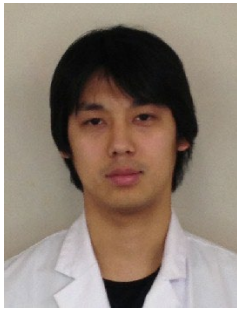
出身大学：三重大学（平成 17 年卒）



チームの一員として、一生懸命頑張ります。
御指導、御鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

宮下 史寛

出身大学：滋賀医科大学（平成 24 年卒）



この度、滋賀医科大学心臓血管外科でお世話になることになった宮下 史寛です。滋賀県の心臓血管外科治療のお役にたてるよう頑張りたいと思います。
ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

森本 政憲

出身大学：滋賀医科大学（平成 24 年卒）



初期研修：滋賀医科大学附属病院

部活：中、高、大とバレー部

趣味：音楽、飲み会

部活で培ったガッツを活かして一生懸命頑張りたいと思います。

ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科

堀本 かな

出身大学：群馬大学（平成 23 年卒）



呼吸器領域の臨床および研究に貢献できるよう励んでいきたいと思っています。

ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

教室業績

心臓血管外科

【論文】

<著書>

浅井 徹

僧帽弁形成術における弁尖切除の意義 僧帽弁形成術では適切に弁尖切除できる技術は必要である

心臓 Vol. 46 NO. 8, 1054-1058, 2014

木下 武, 浅井 徹

特集 CABG を化学する

「両側内胸動脈はゴールドスタンダード！科学的検証から

呼吸と循環器, 第 62 巻 第 11 号 1018-1026, 2014

司会：増山理, 出席者：浅井 徹, 美甘章仁, 藤野裕士

座談会 心臓外科周術期の体液管理

Fluid Management Renaissance, Vol. 4 No. 4 10/31/2014 323-328, 2014

池上博久, 鈴木友彰, 浅井 徹

特集 心臓手術と体液管理

心臓弁膜症手術の術後体液管理-トルバプタンの使用経験から-

Fluid Management Renaissance Vol. 4 No. 4 10/31/2014 349-355, 2014

<英文学術論文>

Suzuki T, Asai T

Reply to Luehr and Etz

Eur J Cardiothorac Surg, Apr;45(4):768, 2014

Kinoshita T, Asai T, Suzuki T, Van Phung D.

Histomorphology of right versus left internal thoracic artery and risk factors for intimal hyperplasia.

Eur J Cardiothorac Surg. Epub 2013 Aug 30 Apr;45(4):726-31 2014

Masato Hayakawa, Tohru Asai, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki.

Quadricuspid Aortic Valve: A Report on a 10-Year Case Series and Literature Review.

Ann Thorac Cardiovasc Surg. Advance Published Date: March 15, 2014

doi:10.5761/atcs.cr.13-00125

Noriyuki Takashima, Masato Hayakawa, Soh Hosoba, Takeshi Kinoshita, Satoshi Kuroyanagi, Hiromitsu Nota, Tomoaki Suzuki, Tohru Asai: Combined total arch replacement and bypass from the ascending aorta to the bilateral profunda femoris arteries.

Anal of Vascular Diseases. 7(2): 183-186, 214

Hiromitsu Nota, Tohru Asai, Tomoaki Suzuki, Takeshi Kinoshita, Hirohisa Ikegami, Noriyuki Takashima

Risk factors for acute kidney injury in aortic arch surgery with selective cerebral perfusion and mild hypothermic lower body circulatory arrest.

Interactive Cardiovascular and Thoracic Surgery, 2014 Dec;19(6):955-61.

doi: 10.1093/icvts/ivu241. Epub 2014 Jul 15.

Noriyuki Takashima, Tomoaki Suzuki, Tohru Asai, Hiromitsu Nota, Hirohisa Ikegami, Takeshi Kinoshita, Susumu Fujino and Soh Hosoba

Outcome of total arch replacement with coronary artery bypass grafting.

European Journal of Cardio-Thoracic Surgery (2014) 1-5, 2014 Sep 19. pii: ezu341. [Epub ahead of print]

Takeshi Kinoshita and Tohru Asai

Reply to Gomes

European Journal of Cardio-Thoracic Surgery (2014) 1-1, 2014 Aug 20. pii: ezu301.

[Epub ahead of print] 2014

Tohru Asai, Takeshi Kinoshita, Tomoaki Suzuki, Shoichiro Shiraishi, Masato Koike

Early and follow-up results of butterfly resection of prolapsed posterior leaflet in 76 consecutive patients.
J Thorac Cardiovasc Surg 2015;:-:1-5 doi: 10.1016/j.jtcvs.2015.01.001. [Epub ahead of print] 2015

Tohru Asai, Tomoaki Suzuki, Takeshi Kinoshita
The new butterfly technique—a sophisticated repair method for posterior leaflet prolapse
Ann Cardiothorac Surg 2014, Submitted Oct 01, 2014. Accepted for publication Dec 02, 2014.

Tomoaki Suzuki, Tohru Asai, Hiromitsu Nota, Takeshi Kinoshita, Susumu Fujino, Noriyuki Takashima
Similar Outcome in Insulin-Dependent and Noninsulin-Dependent Diabetic Patients After Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting With Multiple Skeletonized Arterial Conduits
THE ANNALS OF THORACIC SURGERY · FEBRUARY 2015 Ann Thorac Surg 2015;:-:--- DOI: 10.1016/j.athoracsur.2014.12.014 2015

Takeshi Kinoshita, Tohru Asai, Tomoaki Suzuki
Reoperative Median Sternotomy Following the Use of a Right Internal Mammary Artery Pedicle Graft Crossing the Midline to the Left Anterior Descending Artery.
J Card Surg 2015;30:396-399 03/2015; DOI: 10.1111/jocs.12535 J Card Surg 2015;30:396-399 2015

Takeshi Kinoshita, Tohru Asai, Tomoaki Suzuki
Off-Pump Bilateral Skeletonized Internal Thoracic Artery Grafting in Patients with Chronic Kidney Disease
Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery, DOI: 10.1016/j.jtcvs.2015.04.058, 2015

Suzuki Tomoaki , Asai Tohru
The current status of multi-arterial off-pump coronary artery bypass grafting
Surg Today Received: 21 October 2014 / Accepted: 20 January 2015
DOI: 10.1007/s00595-015-1124-4 2015

<和文学術論文>

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, 浅井 徹
潰瘍性大腸炎に合併した感染性心内膜炎による僧帽弁閉鎖不全症に対し形成術を行った1例
胸部外科, 2014年 67巻5号 p. 408 -410; 67巻5号 p. 408 -410, 2014

鈴木友彰, 浅井 徹
心臓・大血管外科手術におけるインフォームドコンセント 2. 冠動脈バイパス術
日本外科学会誌, 115 (5) 247-252, 2014

浅井 徹
CKDを有する血行再建
日本冠疾患学会雑誌, Vol. 21, 2, 2015 153

木下 武, 浅井 徹
透析患者に対する冠動脈バイパス術
日本冠疾患学会雑誌, Vol. 21, 2, 2015 168-172

高島範之, 早川真人, 木下 武, 畔柳智司, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹
冠動脈バイパスを伴う弓部置換術の手術成績
冠疾患誌 2014; 20: 12-16 冠疾患誌 2014; 20: 12-16 2014

【学会発表】

<国際学会>

M. Enomoto, H. Nota, H. Ikegami, N. Takashima, S. Fujino, T. Kinoshita, T. Suzuki, T. Asai
SURGICAL REPAIR OF TRAUMATIC TRICUSPID REGURGITATION, ASCVTS2014, 2014年4月3日, トルコ

H Ikegami, T Suzuki, H Nota, T Kinoshita, S Fujino, T Takashima, S Naito, M Enomoto, Y Kondo, T Asai
Early Results of Type A Aortic Dissection Complicated with Coronary Malperfusion.
AATS Aortic Symposium 2014, 2014年4月24日, ニュヨーク

T. Asai

Aortic arch replacement with selective cerebral perfusion and mild hypothermic lower body circulatory arrest. #2 The Heart Surgery Forum, 2014年5月16日, Split

T. Asai

Butterfly resection is a reasonable standard mitral valve repair method for degenerative MR. #2 The Heart Surgery Forum, 2014年5月17日, Split

Tohru Asai

Alternative Resections for Posterior Leaflet Prolapse. Leiden Mitral Valve Repair Course In Partnership with The Mitral Academy. 2014年6月3日, Leiden

Tomoaki Suzuki, Tohru Asai, Takeshi Kinoshita

Total Arterial Off-pump Coronary Artery Bypass Grafting Can Improve Clinical Outcome for Patients with Diabetes Mellitus. AHA Scientific Sessions 2014, 2014年11月18日, Chicago

<全国学会 >

International Session

Shiho Naito

IS-7-3 Outcome of early surgery for aortic infective endocarditis

第114回日本外科学会定期学術集会, 2014年4月4日, 京都

浅井 徹

How to do it 4, 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月23日, 青森

乃田浩光, 浅井 徹, 鈴木友彰, 池上博久, 高島範之, 藤野 晋, 内藤志歩, 榎本匡秀, 近藤 康生

TEVARにおける脊椎虚血予防-INVOSの有用性-, 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月23日, 青森

池上博久, 浅井 徹, 鈴木友彰, 乃田浩光, 藤野 晋, 高島範之, 内藤志歩, 榎本匡秀, 近藤康生

急性A型大動脈解離により冠動脈還流障害を合併した症例の検討,

第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月22日, 青森

榎本匡秀, 高島範之, 近藤康生, 内藤志歩, 藤野 晋, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

大動脈弁閉鎖不全症を伴う成人期大動脈縮窄症に対し胸骨正中切開にて一期的手術を施行した一例, 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月22日, 青森

内藤志歩, 榎本匡秀, 近藤康生, 高島範之, 藤野 晋, 池上博久, 木下 武, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

Risk factor for reoperation after surgical correction of acute type A aortic dissection, 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月23日, 青森

近藤康生, 榎本匡秀, 内藤志歩, 藤野 晋, 高島範之, 池上博久, 乃田浩光, 太田信一, 鈴木友彰, 浅井 徹

内腸骨動脈瘤静脈穿破を瘤破裂のみと誤診したが, 二期的に血管内治療を施行し救命しえた1例 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月23日, 青森

池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 榎本匡秀, 近藤康生, 内藤志歩, 藤野 晋, 高島範之, 浅井 徹

感染性腕頭動脈仮性瘤破裂に対する開胸手術後の弓部破裂に対してZone0へのTEVARを施行した1例, 第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月23日, 青森

高島範之, 近藤康生, 榎本匡秀, 内藤志歩, 藤野 晋, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

弓部置換術において再胸骨切開は手術リスクとなるか?

第42回日本血管外科学会学術集会総会, 2014年5月22日, 青森

浅井 徹

術中グラフト評価は最高水準のOPCABでは必須である

第19回日本冠動脈外科学会学術大会, 2014年7月10日, 東京

榎本 匡秀, 近藤 康生, 藤野 晋, 池上 博久, 木下 武, 乃田 浩光, 鈴木 友彰, 浅井 徹
心臓カテーテル後に発生した左心房壁内巨大血腫の画像と手術所見
第 19 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2014 年 7 月 10 日, 東京

降矢温一, 東上震一, 畔柳智司, 平松範彦
低左心機能 CABG の術式別早期・遠隔期成績の検討
第 19 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2014 年 7 月 11 日, 東京

近藤 康生, 木下 武, 鈴木 友彰, 浅井 徹
CABG 後の Re-do CABG の治療戦略
第 19 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2014 年 7 月 11 日, 東京

薦岡成年, 東上震一, 畔柳智司, 平松範彦, 降矢温一, 内藤 志歩, 小島三郎
当科における急性心筋梗塞後左室破裂に対する治療成績
第 19 回日本冠動脈外科学会学術大会 2014 年 7 月 10 日, 東京

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰
RITA-LAD バイパス術後の再胸骨切開におけるグラフト損傷
第 19 回日本冠動脈外科学会学術大会, 2014 年 7 月 11 日, 東京

浅井 徹
Current Status of CABG in Japan
第 62 回日本心臓病学会学術集会, 2014 年 9 月 27 日, 仙台

木下 武, Nguyen Quang, 田和正志, 鈴木友彰, 浅井 徹, 岡村富夫
CABG 患者における内胸動脈グラフトの内皮機能と腎障害
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 1 日, 福岡

内藤志歩, 木下 武, 榎本匡秀, 近藤康生, 高島範之, 藤野 晋, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹
大動脈二尖弁における上行大動脈置換術適応は 45mm 以上で妥当か?
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 1 日, 福岡

乃田浩光, 浅井 徹, 鈴木友彰, 木下 武, 池上博久, 藤野 晋, 榎本匡秀, 近藤康生, 森本政憲, 宮下史寛
鼓膜温 25 度低体温下半身循環停止による弓部全置換術における急性腎障害(Acute kidney injury)の危険因子
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 1 日, 福岡

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰, 北川裕利
3 次元経食道心エコー図を用いた僧帽弁逸脱病変における弁輪形態の定量評価
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 1 日, 福岡

近藤康生, 榎本匡秀, 藤野 晋, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹
術前脳合併症を伴う活動期感染性心内膜炎に対する治療方針
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 2 日, 福岡

鈴木友彰, 榎本匡秀, 近藤康生, 藤野 晋, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 浅井 徹
糖尿病合併冠動脈疾患症例の遠隔成績を改善するためのバイパスモデルの検証
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 3 日, 福岡

木下 武, Nguyen Quang, 鈴木友彰, 浅井 徹
320 列 CT による僧帽弁輪と冠動脈回旋枝の解剖学的位置関係に関する定量評価
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 3 日, 福岡

内藤志歩, 鈴木友彰, 榎本匡秀, 近藤康生, 藤野 晋, 池上博久, 木下 武, 乃田浩光, 浅井 徹
A 型急性大動脈解離術後再手術のリスクおよび成績
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月 3 日, 福岡

浅井 徹
スケルトナイズ動脈グラフトによる心拍動下冠動脈バイパスの役割
第 55 回日本脈管学会総会, 2014 年 10 月 31 日, 倉敷

乃田浩光, 浅井 徹, 鈴木友彰, 木下武, 池上博久, 藤野晋, 坂倉玲欧, 榎本匡秀, 森本政憲, 宮下史寛
腹部大動脈瘤破裂に対するステントグラフト内挿術
第 55 回日本脈管学会総会, 2014 年 10 月 30 日, 倉敷

池上博久, 鈴木友彰, 榎本匡秀, 宮下史寛, 森本政憲, 藤野晋, 坂倉玲欧, 木下武, 乃田浩光, 浅井徹
膝窩動脈外膜嚢腫に対して嚢腫切除・開放術を施行した 1 例
第 55 回日本脈管学会総会, 2014 年 10 月 30 日, 倉敷

浅井 徹
第 19 回 AHVS/OPCAB 研究会アゲミック学術集会, 2014 年 12 月 11 日, 東京

浅井 徹
CABG の役割
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 12 日, 東京

浅井 徹
動脈グラフトによる off pump バイパスの実力
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 12 日, 東京

木下武, 浅井 徹, 鈴木友彰, 乃田浩光, 池上博久, 坂倉玲欧, 藤野晋
回旋枝の血行再建のグラフト選択
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 12 日, 東京

森本政憲, 木下武, 宮下史寛, 榎本匡秀, 藤野晋, 坂倉玲欧, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹
心外膜エコーでのみ同定し得た吻合部の可動性腫瘍
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 12 日, 東京

榎本匡秀, 乃田浩光, 宮下史寛, 森本政憲, 藤野晋, 坂倉玲欧, 池上博久, 木下武, 鈴木友彰, 浅井 徹
冠動脈カテーテル後に発生した左心房壁内巨大血腫の診断と治療戦略
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 12 日, 東京

坂倉玲欧, 宮下史寛, 森本政憲, 榎本匡史, 藤野 晋, 木下 武, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹
AS を合併した単独 CABG の予後
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 13 日, 東京

藤野晋, 鈴木友彰, 森本政憲, 宮下史寛, 榎本匡秀, 坂倉玲欧, 池上博久, 木下武, 乃田浩光, 浅井 徹
中隔枝巨大冠動脈瘤の 1 治療例
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 13 日, 東京

宮下史寛, 木下武, 森本政憲, 榎本匡秀, 藤野晋, 坂倉玲欧, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井徹
Bare metal stent 留置部位に発生した冠動脈瘤に対する手術の一例
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 13 日, 東京

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰, 乃田浩光, 池上博久, 坂倉玲欧, 藤野晋
透析患者に対する CABG
第 28 回日本冠疾患学会学術集会, 2014 年 12 月 13 日, 東京

乃田浩光, 浅井 徹, 鈴木友彰, 池上博久, 木下 武, 坂倉玲欧, 藤野 晋, 榎本匡秀, 森本政憲, 宮下史寛
腹部大動脈瘤破裂に対するステントグラフト内挿入と開腹人工血管置換術
第 45 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015 年 2 月 16 日, 京都

榎本匡秀, 乃田浩光, 宮下史寛, 森本政憲, 藤野 晋, 坂倉玲欧, 池上博久, 木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹
感染性動脈瘤の治療戦略と早期成績の検討
第 45 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015 年 2 月 16 日, 京都

浅井 徹, 木下 武, 鈴木友彰, 乃田浩光, 池上博久

低位大動脈切開, 完全石灰化除去による AS に対する AVR の早期および長期成績
第 45 回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015 年 2 月 16 日, 京都

< 地方会・研究会 >

乃田浩光

「狭小アクセスルートを要する腹部大動脈瘤に対する EVAR 経験」
ENDURANT Innovation Forum in Kyoto, 2014 年 4 月 4 日, 京都

浅井 徹

「術中冠動脈評価による High Quality CABG を目指して」
第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

乃田浩光, 浅井 徹, 鈴木友彰, 池上博久, 木下 武, 高島範之, 藤野 晋, 内藤志歩, 榎本匡秀, 近藤康生

選択的脳灌流と低体温下半身循環停止での弓部全置換術における急性腎障害 (Acute kidney injury) の危険因子, 第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 20 日, 大阪

榎本匡秀, 高島範之, 近藤康生, 内藤志歩, 藤野 晋, 池上博久, 木下 武, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

先天性左室流出路狭窄に対する Apicoaortic conduit 術後の人工弁不全に対して, Manouguian 法を用いた術式が有効であった一例, 第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

近藤康生, 高島範之, 榎本匡秀, 内藤志歩, 藤野 晋, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

広範な弁尖破壊を伴う僧帽弁位活動期感染性心内膜炎に対して僧帽弁形成術を施行した一例
第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

高島範之, 近藤康生, 榎本匡秀, 内藤志歩, 藤野 晋, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

僧帽弁位感染症心内膜炎に対する僧帽弁形成術の成績,
第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

早川真人, 松林景二 (近江八幡総合医療センター)

下大静脈内腫瘍塞栓を伴う腎細胞癌の 1 手術例
第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

内藤志歩, 榎本匡秀, 近藤康生, 高島範之, 藤野 晋, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

急性大動脈解離 stanford typeA に対する緊急手術加療後の再手術のリスク
第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 2014 年 6 月 19 日, 大阪

浅井 徹

胸部大動脈手術最前線, 第 152 回草津栗東医師会循環器研究会, 2014 年 6 月 25 日, 滋賀

榎本匡秀, 森本政憲, 宮下史寛, 近藤康生, 藤野 晋, 坂倉玲欧, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

肺動脈穿破を伴う仮性上行大動脈瘤により肺動脈主管部の高度狭窄と急性右心不全を呈した一例
第 76 回滋賀県循環器疾患研究会, 2014 年 6 月 28 日, 滋賀

榎本匡秀, 森本政憲, 宮下史寛, 近藤康生, 藤野 晋, 坂倉玲欧, 木下 武, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井 徹

肺動脈穿破を伴う仮性上行大動脈瘤により肺動脈主管部の高度狭窄と急性右心不全を呈した一例
第 76 回滋賀県循環器疾患研究会, 2014 年 6 月 28 日, 滋賀

浅井 徹

僧帽弁閉鎖不全に対する治療
第 154 回草津栗東医師会循環器研究会, 2014 年 10 月 8 日, 滋賀

浅井 徹

私の ITA skeletonization のコツ
CCT2014Surgicl, 2014 年 11 月 1 日, 神戸

榎本匡秀, 坂倉玲欧, 宮下史寛, 森本政憲, 藤野 晋, 池上博久, 木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹 冠動脈バイパス術1年後に心機能低下をきたし透析困難症となった冠動脈盗血症候群の一例
第196回近畿外科学会, 2014年11月1日, 京都

宮下史寛, 藤野 晋, 鈴木友彰, 乃田浩光, 木下 武, 坂倉玲欧, 榎本匡秀, 森本政憲, 浅井 徹 急性肺血栓塞栓症, 巨大右房内血栓に対して緊急血栓摘除術を施行し, 救命しえた一例
第196回近畿外科学会, 2014年11月1日, 京都

宮下史寛, 乃田浩光, 鈴木友彰, 木下 武, 坂倉玲欧, 藤野 晋, 榎本匡秀, 森本政憲, 浅井 徹 急性大動脈解離 Type A に対して上行置換術後に腹部分枝虚血を伴った急性大動脈解離 Type B 発症に対する TEVAR の一例
第196回近畿外科学会, 2014年11月1日, 京都

坂倉玲欧

冠動脈バイパス手術1年後に透析困難となった1例
第22回近畿心臓血管外科専門医フォーラム, 2014年11月22日, 大阪

近藤康生, 高島範之, 鈴木友彰, 浅井 徹

著明な流出路狭窄とSAMによる高度僧帽弁逆流を伴う閉塞型肥満型心筋症に対する一手術例
第77回滋賀県循環器疾患研究会, 2014年12月6日, 滋賀

宮下史寛, 藤野 晋, 鈴木友彰, 乃田浩光, 木下武, 坂倉玲欧, 榎本匡秀, 森本政憲, 浅井徹
急性肺血栓閉塞症, 巨大右房内血栓に対して緊急血栓摘除術を施行し, 救命しえた一例
第77回滋賀県循環器疾患研究会, 2014年12月6日, 滋賀

小池雅人, 白石昭一郎, 青嶋 實, 鈴木 友彰, 浅井 徹

超高齢の腹部大動脈瘤に対して開腹手術を行いfast-track recoveryを成し得た二症例
第77回滋賀県循環器疾患研究会, 2014年12月6日, 滋賀

森本政憲, 鈴木友彰, 宮下史寛, 榎本匡秀, 藤野 晋, 坂倉玲欧, 木下 武, 乃田浩光, 浅井 徹 左室流出路狭窄を来した巨大左冠動脈流の一例
第77回滋賀県循環器疾患研究会, 2014年12月6日, 滋賀

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, 浅井 徹

僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術の成績~当院における手術術式と成績~
第77回滋賀県循環器疾患研究会, 2014年12月6日, 滋賀

浅井 徹

僧帽弁形成術-バタフライ法のコンセプトと実際-
第23回広島心血管手術手技研究会, 2015年2月7日, 広島

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰

虚血性僧帽弁閉鎖不全症における弁輪形態の3次元定量評価
第45回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015年2月18日, 京都

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰

慢性心房細動を合併した大動脈弁狭窄症に対するMaze手術の臨床成績
第45回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015年2月18日, 京都

木下 武, 浅井 徹, 鈴木友彰, 乃田浩光, 池上博久, 坂倉玲欧, 藤野晋, 榎本匡秀, 宮下史寛, 森本政憲
終末期腎不全に対する両側内胸動脈バイパス
第45回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015年2月18日, 京都

坂倉玲欧, 木下 武, 宮下史寛, 森本政憲, 榎本匡秀, 藤野晋, 池上博久, 乃田浩光, 鈴木友彰, 浅井徹
ASを合併した単独CABG後の予後

第45回日本心臓血管外科学会学術総会, 2015年2月18日, 京都

浅井 徹

動脈グラフトによるオフポンプ冠動脈バイパスの実力
第156回草津東医師会循環器研究会, 2015年2月25日, 草津

森本政憲, 乃田浩光, 宮下史寛, 榎本匡秀, 藤野 晋, 坂倉玲欧, 木下 武, 鈴木友彰, 浅井 徹
腹部動脈瘤IVC穿破に対するEVARの一例

第29回日本血管外科学会近畿地方会, 2015年3月7日, 大阪

<公開講座>

市民公開講座

浅井 徹

心臓血管外科治療の最前線 第4回”心臓病”で命を落とさないために
湖東記念病院, 2014年5月11日, 滋賀

<講演>

浅井 徹

「患者にやさしい心臓血管手術-地域医療への貢献-」

東近江医師会, 2014年6月26日, 滋賀

浅井 徹

「最新のエビデンスから解ってきた冠動脈バイパスとPCIの役割」

湖北医師会, 2014年6月28日, 滋賀

浅井 徹

未来の心臓外科医へ

心臓血管外科サマースクール 2014, 2014年8月24日, 神戸

浅井 徹

動脈グラフトによるオフポンプバイパスの実力

平成26年度南勢胸部外科セミナー, 2014年9月11日, 三重

浅井 徹

低位大動脈切開, 完全石灰化除去によるASに対するAVR

第5回心臓血管外科フォロントピアアカデミー, 2014年9月20日, 札幌

浅井 徹

Fast Track Recoveryが可能になった大動脈弓部全置換術

第10回三重胸部外科手術手技フォーラム, 2014年10月24日, 三重

浅井 徹

最高水準の治療を目指すチーム浅井の挑戦

第40回若鮎祭, 2014年10月25日, 滋賀医科大学

浅井 徹

「動脈グラフトによるオフポンプバイパスの実力」

第93回北里循環器セミナー, 2014年11月13日, 神奈川

浅井 徹

OPCABからトータルアーチにいたるまでのFirst Track Recovery

(副題) 本当の侵襲とは何か?

第2回セコムグループ循環器・心臓外科合同学術会議, 2014年11月15日, 札幌

浅井 徹

動脈グラフトによるオフポンプバイパスの実力

第100回長岡地区循環器懇話会, 2014年11月22日, 新潟

浅井 徹

Fast Track Recoveryが可能となった最新の弓部全置換術

第16回 Joint Conference on Cardiovascular Management, 2015年1月10日, 京都

鈴木 友彰

滋賀医科大学における大血管手術の現況 (仮題)

テルモ株式会社 支店内講演会, 2015年2月6日, 京都

<指導>

手術ビデオライブデモンストレーション

浅井徹

「トータルアーチストラテジー（手術編）」
KCJL2014 近畿心臓血管治療ジョイントライブ 2014, 2014 年 4 月 19 日, 京都

浅井 徹
ウェットラボ手術主義指導
心臓血管外科サマースクール 2014, 2014 年 8 月 23 日, 神戸

呼吸器外科

【論文】

<英文学術論文>

Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Shoji Asakura, and Takuya Fujita
Infected Bronchogenic Cyst Treated With Drainage Followed by Resection
The Annals of Thoracic Surgery. 98(1): 332-4, 2014 July

Yo Kawaguchi, Jun Hanaoka, Koji Teramoto, Shoji Teramoto, Masayuki Hashimoto, Ryosuke Kaku, Keiko Ishida, Shoji Asakura.
Pulmonary metastasis of invasive thymoma, showing endobronchial polypoid growth: report of a case.
Surgery Today. 44(7), 1371-1374, 2014 July

Masatsugu Ohuchi, Shuhei Inoue, Yoshitomo Ozaki, Takuya Fujita, Tomoyuki Igarashi, Keiko Ueda, Jun Hanaoka
Single-trocar thoracoscopy under local anesthesia for pleural space infection
Gen Thorac Cardiovasc Surg 62:503-510 2014 August

Jun Hanaoka, Yo Kawaguchi, Masayuki Hashimoto, Yasuhiko Ohshio, Koji Teramoto, Ryosuke Kaku.
Superior sulcus tumor resection with multiple pulmonary arteriovenous fistulas.
The Annals of Thoracic Surgery. 98(3): e67-68, 2014. 9

Keiichi Kontani, Shin-ichiro Hashimoto, Chisa Murazawa, Shoko Norimura, Hiroaki Tanaka, Masahiro Ohtani, Naomi Fujiwara-Honjo, Manabu Date, Koji Teramoto, Hitoshi Houchi, Hiroyasu Yokomise.
Factors responsible for long-term survival in metastatic breast cancer.
World Journal of Surgical Oncology. 12: 344, 2014 November

Makoto Motoishi, Keigo Okamoto, Yoko Kataoka, Satoru Sawai, Mayumi Oshio, Jun Hanaoka
Low-Grade Osteosarcoma of the Lung Diagnosed at the Time of Recurrence
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 20 (Supplement) : 595-598, 2014 December

Yasuhiko Ohshio, Jun Hanaoka, Keiichi Kontani, Koji Teramoto.
Tranilast inhibits the function of cancer-associated fibroblasts responsible for the induction of immune suppressor cell types.
Scandinavian Journal of immunology. 80(6): 408-416, 2014 December

Yasuhiko Ohshio, Koji Teramoto, Jun Hanaoka, Noriyuki Tezuka, Yasushi Itoh, Tohru Asai, Yataro Daigo and Kazumasa Ogasawara
Cancer-associated fibroblast-targeted strategy enhances antitumor immune responses in the dendritic cell-based vaccine.
Cancer Science. 106(2): 134-142, 2015 February

Yo Kawaguchi, Takuya Fujita, Jun Hanaoka,
Catamenial Pneumothorax With Bullae
Ann Thorac Surg. 99:1075-8, 2015 March

<和文学術論文>

岡本圭伍, 片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳
心嚢を取り囲むように増生した縦隔嚢胞性リンパ管腫の1切除例
日本呼吸器外科学会 28巻4号 124-129, 2014. 6

岡本圭伍, 片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳
胸腔鏡下に診断した肝細胞癌術後胸膜・肺転移再発の1例
気管支学 第36巻5号 525-529, 2014年9月

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 北村将司, 上田桂子, 花岡淳
放線菌による肺癌術後気管支断端縫合糸膿瘍の1例
気管支学 第36巻5号 492-497; 2014年9月

橋本雅之, 花岡 淳, 北野晴久, 大塩恭彦, 五十嵐知之, 片岡瑛子, 白鳥琢也, 林 一喜, 堀本かな
前縦隔に発生した重複気管支嚢胞の1例
胸部外科 67(13): 1198-1200, 2014

林 一喜, 花岡 淳, 橋本 雅之, 賀来 良輔, 五十嵐 知之, 大塩 恭彦
人工心肺使用下に上大静脈合併切除および再建術を施行した胸腺癌の一例
日本呼吸器外科学会 28巻7号 79(915)-84(920), 2014年11月

藤野昇三, 渡部真人, 手塚則明
長期予後と再発形式
日本胸部臨床 第74巻第1号: 40-47, 2015年1月

【学会発表】

<全国学会>

大塩恭彦, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 橋本雅之, 花岡 淳, 手塚則明, 寺本晃治
腫瘍免疫応答におけるがん関連線維芽細胞の機能解析
第114回日本外科学会定期学術集会, 2014年4月5日, 京都

橋本雅之, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明, 花岡 淳
画像解析ソフトを用いた肺区域容量の測定と術後肺機能予測について
第114回日本外科学会定期学術集会, 2014年4月5日, 京都

花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 大内政嗣, 寺本晃治
当科における原発性肺癌に対する完全鏡視下肺葉切除術症例の検討
第114回日本外科学会定期学術集会, 2014年4月5日, 京都

橋本雅之, 花岡 淳, 大塩恭彦, 五十嵐知之, 林 一喜, 小熊哲也(呼吸器内科), 後藤健一(呼吸器内科), 樋上雄一(呼吸器内科), 吉橋彩子(呼吸器内科)
腫瘍倍加時間の異なる同時性多発肺腫瘍の1切除例
第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014年4月26日, 大阪

片岡 瑛子, 岡本 圭伍, 五十嵐 知之, 元石 充, 寺本 晃治, 花岡 淳, 澤井 聡
末梢型肺腺癌における胸膜浸潤の病理学的検討(国立病院機構京都医療センター)
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

片岡 瑛子, 岡本 圭伍, 元石 充, 花岡 淳, 澤井 聡
右下葉気管支切離時に気管内吸引チューブを同時に切離した一例(国立病院機構京都医療センター)
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

五十嵐知之, 花岡 淳, 橋本雅之, 大塩恭彦, 賀来良輔, 林 一喜, 手塚則明, 寺本晃治, 大内政嗣
肺切除周術期におけるモストグラフによる呼吸機能評価
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚 則明
広範囲進展降下性壊死性縦隔炎(type IIB)の検討
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 寺本晃治
術前導入化学放射線療法後の右肺上葉管状切除術後に合併した気管支肺動脈瘻の1 救命例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

橋本雅之, 花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
部分肺静脈還流異常を伴った肺扁平上皮癌の1 切除例—肺静脈の切離をポイントに—
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京

林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
確定診断に難渋し, 胸骨部分切開と半襟状切開併用により摘出術を施行したCastleman 病の一例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月30日, 東京

賀来良輔, 林 一喜, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 寺本晃治, 手塚則明, 大内政嗣
当科手術後にたこつぼ型心筋症を発症した2 症例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月30日, 東京

橋本雅之, 花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
胸膜播種再発に対し再切除を行った良性転移性平滑筋腫の一切除例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月30日, 東京

五十嵐知之, 林 一喜, 賀来良輔, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
摘出困難であった縦隔嚢胞の二切除例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月30日, 東京

五十嵐知之, 片岡瑛子, 大塩恭彦, 花岡 淳, 寺本晃治, 醍醐弥太郎
非小細胞肺癌根治術における血中 PD-1 陽性細胞のモニタリング
第73回日本癌学会学術総会, 2014年9月25日, 横浜

大塩恭彦, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 花岡 淳, 寺本晃治
低酸素ががん間質線維芽細胞の機能に与える影響について
第73回日本癌学会学術総会, 2014年9月27日, 横浜

橋本雅之, 花岡 淳, 大塩恭彦, 五十嵐知之, 片岡瑛子, 白鳥琢也, 林 一喜, 堀本かんな, 大内正嗣,
寺本晃治, 手塚則明
内胸動脈グラフトを用いたCABG後の肺癌手術における注意点と対策
第67回日本胸部外科学会定期学術集会 2014/10/2 発表

橋本雅之, 花岡 淳, 北野晴久, 大塩恭彦, 五十嵐知之
肺動脈大動脈起始異常: 異常血管処理におけるStapler 選択について
第27回日本内視鏡外科学会総会, 2014年10月4日, 盛岡

花岡 淳, 堀本かんな, 白鳥琢也, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 北野晴久
pN1/2 肺癌に対する完全鏡視下胚葉切除術の治療成績
第27回日本内視鏡外科学会総会, 2014年10月4日, 盛岡

林 一喜, 堀本かんな, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内正嗣, 寺
本晃治, 手塚則明
原発性肺平滑筋肉腫と肺大細胞癌の異時性重複悪性腫瘍に対して残存肺全摘術を施行した1 例
第55回日本肺癌学会学術集会, 2014年11月14日, 京都

片岡瑛子, 岡本圭伍, 大塩麻由美, 元石 充, 花岡 淳, 澤井 聡
肺腺癌術後に乳腺転移をきたした1 例
第55回日本肺癌学会学術集会, 2014年11月14日, 京都

白鳥琢也, 橋本雅之, 堀本かんな, 林一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内正嗣, 寺本晃治, 手
塚則明, 花岡 淳
pT1aEP 食道癌にリンパ節転移は起こりえないのか?
第55回日本肺癌学会学術集会, 2014年11月14日, 京都

花岡 淳, 堀本かんな, 白鳥琢也, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 大内正嗣
本院における高齢者肺癌の治療の流れ
第55回日本肺癌学会学術集会, 2014年11月15日, 京都

<地方会・研究会>

林 一喜, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明

17年の経過で徐々に増大傾向を示した肺静脈瘤の1切除例
第195回近畿外科学会, 2014年5月24日, 大阪

林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
術後陽圧換気により生じた気管支瘻に対し, 気管支鏡下処置で瘻孔閉鎖が得られた1例
第57回関西胸部外科学会, 2014年6月19日, 大阪

五十嵐知之, 花岡 淳, 大塩恭彦, 橋本雅之, 片岡瑛子, 林 一喜, 白鳥琢也, 堀本かんな, 大内政嗣
起因菌を同定しえなかった炎症性肉芽腫症切除例の検討
第113回日本結核病学会近畿地方部会, 2014年6月28日, 姫路

寺本晃治 (腫瘍内科学講座)

がん免疫治療の基礎と臨床

平成26年度 関西臨床腫瘍研究会 (KCOG) 夏期総会・特別講演会, 2014年7月5日, 大阪

川口 庸 (公立甲賀病院), 藤田琢也, 花岡 淳

自然退縮した肺原発リンパ上皮腫様癌の1例

第100回日本肺癌学会関西支部学術集会, 2014年7月5日, 大阪

堀本かんな, 花岡 淳, 橋本雅之, 大塩恭彦, 五十嵐知之, 片岡瑛子, 林 一喜, 白鳥琢也

Crizotinib内服で腎機能低下を来した肺腺癌の2例

第100回日本肺癌学会関西支部学術集会, 2014年7月5日, 大阪

堀本かんな,

当科における術前導入・術後補助化学療法の経験

第33回京滋肺癌研究会, 2014年7月11日, 京都

林 一喜, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明

右B1+2転位気管支とV1+2走行異常を伴う右上葉肺癌に対して完全鏡視下肺葉切除術を施行した1例

第95回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会および第11回気管支鏡セミナー, 2014年7月19日, 大阪

白鳥琢也, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳

剣状突起下アプローチで気胸併用下胸腺右葉切除術を施行, 良好な視野を得られた1症例

第31回近畿胸腔鏡研究会, 2014年8月23日, 大阪

堀本かんな, 橋本雅之, 林 一喜, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 寺本晃治, 手塚則明, 花岡 淳, 上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平

胸腔鏡下に切除した胸膜発生多発石灰化線維性腫瘍の1例

第196回近畿外科学会, 2014年11月1日, 京都

白鳥琢也, 橋本雅之, 堀本かんな, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 寺本晃治, 手塚則明, 花岡 淳

胸腺原発類基底細胞癌の1例

第101回日本肺癌学会関西支部学術集会, 平成27年2月21日, 大阪

尾崎良智 (国立病院機構滋賀病院), 井上修平, 北村将司, 上田桂子, 五十嵐知之

当院における非結核性抗酸菌症に対する外科治療成績

第90回日本結核病学会総会, 平成27年3月27日, 長崎

五十嵐知之, 花岡 淳, 大内政嗣

感染性肉芽腫症61切除例の検討

第90回日本結核病学会総会, 平成27年3月27日, 長崎

<パネリスト>

橋本雅之
MEET THE EXPERT, 2014年10月9日, 草津エストピアホテル

<講演>
花岡 淳
肺癌の診断と治療
XLK 社内勉強会プログラム, 2014年6月13日, 滋賀

滋賀医科大学 救急集中治療医学講座

学術論文

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 北村将司, 上田桂子, 花岡 淳
放線菌による肺癌術後気管支断端縫合糸膿瘍の1例. 気管支学, 36(5): 492-497, 2014.

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 藤田琢也, 上田桂子, 花岡 淳. シカ生肉が感染源と考えられたウエステルマン肺吸虫症の1例. 日本呼吸器外科学会雑誌, 28(2): 170-176, 2014.

Masatsugu Ohuchi, Shuhei Inoue, Yoshitomo Ozaki, Takuya Fujita, Tomoyuki Igarashi, Keiko Ueda, Jun Hanaoka. Single-trocar thoracoscopy under local anesthesia for pleural space infection. General Thoracic and Cardiovascular Surgery, 62(8): 503-510, 2014.

【学会発表】

<全国学会>

花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明

当科における原発性肺癌に対する完全鏡視下肺葉切除術症例の検討
第114回日本外科学会定期学術集会 2014年4月, 京都

橋本雅之, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明,
花岡 淳

画像解析ソフトを用いた肺区域容量の測定と術後肺機能予測について
第114回日本外科学会定期学術集会. 2014年4月, 京都

江口 豊, 辻田靖之, 浜本 徹, 藤野和典, 山根哲信, 岸本卓磨, 橋本賢吾, 今宿康彦, 松浪 薫, 牛場 彩, 大内政嗣, 松下美季子, 田畑貴久, 高橋 完, 松村一弘
重症敗血症におけるDIC治療の変遷と成績
2014年5月, 第36回日本血栓止血学会学術集会, 大阪

五十嵐知之, 花岡 淳, 橋本雅之, 大塩恭彦, 賀来良輔, 林 一喜, 手塚則明, 寺本晃治,
大内政嗣

肺切除周術期におけるモストグラフによる呼吸機能評価
2014年5月, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 大内政嗣, 寺本晃治,
手塚則明

広範囲進展降下性壊死性縦隔炎 (type IIB) の検討
2014年5月, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

橋本雅之, 花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治,

手塚則明

部分肺静脈還流異常を伴った肺扁平上皮癌の1切除例ー肺静脈の切離をポイントに
2014年5月, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治,
手塚則明

確定診断に難渋し, 胸骨部分切開と半襟状切開併用により摘出術を施行した Castleman 病の1
例, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

橋本雅之, 花岡 淳, 林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣, 寺本晃治,
手塚則明

胸膜播種再発に対し再切除を行った良性転移性平滑筋腫の1切除例
2014年5月, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

五十嵐知之, 林 一喜, 賀来良輔, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治,
手塚則明

摘出困難であった縦隔嚢胞の2切除例, 2014年5月, 第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京

橋本雅之, 堀本かんな, 白鳥琢也, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣,
北野晴久, 寺本晃治, 手塚則明, 花岡 淳

内胸グラフトを用いた CABG 後の肺癌手術における注意点と対策
第67回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014年10月, 福岡

五十嵐知之, 花岡 淳, 大塩恭彦, 橋本雅之, 北野晴久, 片岡瑛子, 林 一喜, 白鳥琢也,
堀本かんな, 大内政嗣, 手塚則明, 寺本晃治

当科における, 肺良性腫瘍 129 切除例の検討
第67回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014年10月, 福岡

田畑貴久, 喜多理香, 橋本賢吾, 牛場 彩, 大内政嗣, 北村直美, 藤野和典, 松下美季子,
辻田靖之, 松村一弘, 江口 豊

重症敗血症の抗生剤の検討ーメロペネム vs PIPC/TAZ
第42回日本救急医学会総会学術集会, 2014年10月, 福岡

五月女隆男, 杉本俊郎, 大西正人, 大内政嗣

下垂体前葉不全からの高度低 Na 血症により可逆性の頭部 MRI 異常を呈した1例
第42回日本救急医学会総会学術集会, 2014年10月, 福岡

林 一喜, 堀本かんな, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳,
大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明

原発性肺平滑筋肉腫と肺大細胞癌の異時性重複悪性腫瘍に対して残存肺全摘術を施行した1
例, 第55回日本肺癌学会学術総会, 2014年11月, 京都

白鳥琢也, 橋本雅之, 堀本かんな, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 大内政嗣,
寺本晃治, 手塚則明, 花岡 淳

pT1a-EP 食道癌にリンパ節転移は起こりえないのか?
第55回日本肺癌学会学術総会, 2014年11月, 京都

花岡 淳, 堀本かんな, 白鳥琢也, 林 一喜, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之,
大内政嗣, 本院における高齢者肺癌の治療の流れ

第55回日本肺癌学会学術総会, 2014年11月, 京都

賀来良輔, 林 一喜, 五十嵐知之, 橋本雅之, 大塩恭彦, 花岡 淳, 手塚則明, 大内政嗣,
寺本晃治

若年女性の非小細胞肺癌手術症例の臨床病理学的特徴について
第114回日本外科学会定期学術集会, 2014年4月, 京都

江口 豊, 大内政嗣, 藤野和典, 田畑貴久, 松村一弘

地域中核病院における救急科専門医の位置づけーER 型救急医+ホスピタリストとしての役割。

第 42 回日本救急医学会総会学術集会, 2014 年 10 月, 福岡

賀来良輔, 林 一喜, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 寺本晃治, 手塚則明, 大内政嗣
当科手術後にたこつぼ型心筋症を発症した 2 症例, 2014 年 5 月, 第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 東京

五十嵐知之, 花岡 淳, 大内政嗣
感染性肉芽腫症 61 切除例の検討, 第 90 回日本結核病学会総会, 2015 年 3 月, 長崎

< 地方会・研究会 >

林 一喜, 賀来良輔, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
術後陽圧換気により生じた気管支瘻に対し気管支鏡下処置で瘻孔閉鎖が得られた 1 例
2014 年 6 月, 第 57 回関西胸部外科学会学術集会, 大阪

林 一喜, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 橋本雅之, 花岡 淳, 大内政嗣, 寺本晃治, 手塚則明
右 B1+2 転位気管支と V1+2 走行異常を伴う右上葉肺癌に対して完全鏡視下肺葉切除術を施行した 1 例, 2014 年 7 月, 第 95 回 日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会, 大阪

赤澤 彰, 喜多理香, 橋本賢吾, 牛場 彩, 藤井恵美, 岸本卓磨, 松下美季子, 大内政嗣, 山根哲信, 浜本 徹, 藤野和典, 辻田靖之, 田畑貴久, 高橋 完, 松村一弘, 江口 豊
発見が遅れた敗血症性ショック・小腸壊死に対し小腸切除術施行し救命するも, 治療断念となった統合失調症患者の 1 例, 第 59 回日本集中治療医学会近畿地方会, 2014 年 7 月, 高槻

橋本賢吾, 江口 豊, 松村一弘, 辻田靖之, 松下美季子, 高橋 完, 田畑貴久, 藤野和典, 浜本 徹, 大内政嗣, 山根哲信, 今宿康彦, 岸本卓磨, 藤井恵美, 牛場 彩, 喜多理香
APRV および脳低温療法にて管理した病的肥満患者の蘇生後症例
第 59 回日本集中治療医学会近畿地方会, 2014 年 7 月, 高槻

五十嵐知之, 花岡 淳, 大塩恭彦, 橋本雅之, 片岡瑛子, 林 一喜, 白鳥琢也, 堀本かんな, 大内政嗣
起炎菌を同定しえなかった炎症性肉芽腫症切除例の検討
第 83 回日本呼吸器学会近畿地方会, 第 113 回日本結核病学会近畿地方会, 2014 年 6 月, 姫路

神鳥研二, 松村一弘, 橋本賢吾, 牛場 彩, 大内政嗣, 北村直美, 松下美季子, 藤野和典, 田畑貴久, 江口 豊
後頸部, 背部痛を主訴に救急搬入後, 急激な Brown-Sequard 症候群の出現で診断できた特発性脊髄硬膜外血腫の 1 例, 第 111 回近畿救急医学研究会 (日本救急医学会近畿地方会, 2015 年 3 月, 和歌山

關 連 病 院 業 績

1. 論文

1) 著書： なし

2) 学術論文

①著者： Tahara T, Yamamoto E, Suzuki H, Maruyama R, Chung W, Garriga J, Jelinek J, Yamano HO, Sugai T, An B, Shureiqi I, Toyota M, Kondo Y, Estécio MR, Issa JP.

タイトル：「Fusobacterium in colonic flora and molecular features of colorectal carcinoma,」

雑誌名： Cancer Res. 2014 Mar 1;74(5):1311-8. doi: 10.1158/0008-5472.CAN-13-1865. Epub 2014 Jan 2.

2. 学会発表

1) 国際学会： なし

2) 全国学会： なし

3) 地方会・研究会： なし

3. 対外活動

1) ライブ手術： なし

2) 講演： なし

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター

【論文】

<英文学術論文>

Masatsugu Ohuchi, Shuhei Inoue, Yoshitomo Ozaki, Takuya Fujita, Tomoyuki Igarashi, Keiko Ueda, Jun Hanaoka.

Single-trocar thoracoscopy under local anesthesia for pleural space infection.
Gen Thorac Cardiovasc Surg. 62 巻, 8 号, p503-510, 2014. 8. 1

<和文学術論文>

大内政嗣, 井上修平, 尾崎良智, 北村将司, 上田桂子, 花岡 淳
シ放線菌による肺癌術後気管支断端縫合糸膿瘍の1例
気管支学(日本呼吸器内視鏡学会雑誌), 36 巻 5 号, p492-497, 2014. 9. 25

【学会発表】

<全国学会 一般発表>

尾崎良智, 井上修平, 北村将司, 上田桂子
局所麻酔下胸腔鏡検査で診断確定した胸膜悪性リンパ腫の1例
第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 京都, 2014. 4. 14-15

和田 広, 上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
当院における潜在性結核感染症治療の現状について
第89回日本結核病学会総会, 岐阜, 2014. 5. 9-10

尾崎良智, 井上修平, 北村将司, 上田桂子
肺結核後の巨大空洞に発生した肺アスペルギローマの1治験例.
第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014. 5. 29-30

北村将司, 井上修平, 尾崎良智, 上田桂子
当科での若年自然気胸手術における術後再手術症例の検討
第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014. 5. 29-30

上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
前縦隔に発生したT細胞性リンパ芽球型リンパ腫の1例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 東京, 2014. 5. 29-30

鶴飼佳子, 内山慶一, 藤井紀和, 上田桂子, 尾崎良智, 井上修平, 真鍋俊明
Kaposiform hemangioendothelioma (KHE) を疑った1例
第30回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 東京, 2014. 7. 4-5

中村忠弘, 原 暢応, 前田真次, 井上修平
今, そこにある危機! 大規模防災訓練で痛感した準備不足・課題について
第68回国立病院総合医学会, 横浜, 2014. 11. 14-15

中村忠弘, 原 暢応, 前田真次, 井上修平
電子カルテ整備・導入に対する管理面からの提唱～詰めの甘さ・失敗を繰り返さないために～
第68回国立病院総合医学会, 横浜, 2014. 11. 14-15

尾崎良智, 井上修平, 北村将司, 上田桂子, 五十嵐知之
当院における非結核性抗酸菌症に対する外科治療成績
第90回日本結核病学会総会, 長崎, 2015. 3. 27-28

<地方会・研究会発表>

小熊哲也, 重森 度, 上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
両肺門周囲リンパ節腫脹をきたした一例
第42回 Shiga Chest Disease Conference, 瀬田 2014. 7. 24

上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
肺分画症に合併した後縦隔嚢胞摘出術後に食道穿孔をきたした一例
第49回近江呼吸器疾患研究会, 京都, 2014. 9. 6

藤田琢也, 川口 庸, 尾崎良智, 井上修平
開胸術後に発症した肋骨骨髓炎の一例
第 49 回近江呼吸器疾患研究会, 京都, 2014. 9. 6

鵜飼佳子, 重森 度, 小熊哲也, 上田桂子, 北村将司, 井上修平, 藤井紀和, 中西健史
皮膚潰瘍を契機にして皮膚筋炎を疑った 1 例
日本皮膚科学会第 437 回京滋地方会, 滋賀, 2014. 9. 6

尾崎良智, 野原 淳, 仲川宏昭, 橋本雅之
症例呈示に基づいたディスカッション
症例呈示に基づいたディスカッション, Meet The Expert, クワエストビ°ホテル 2 階, 2014. 10. 9

和田 広, 中野恭幸, 井上修平
胸膜炎が関節症状に先行し, 胸水中の ADA が高値であった両側リウマチ性胸膜炎の 1 例
第 2 回滋賀胸部医会学術講演会, 滋賀, 2014. 10. 16

堀本かんな, 橋本雅之, 林 一喜, 白鳥琢也, 片岡瑛子, 五十嵐知之, 大塩恭彦, 寺本晃司, 手塚則明,
花岡 淳, 上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
胸腔鏡下に切除した胸膜発生多発石灰化線維性腫瘍の 1 例
第 196 回近畿外科学会, 京都, 2014. 11. 1

上田桂子, 尾崎良智, 北村将司, 井上修平
胸肺分画症に合併した後縦隔嚢胞摘出術後に食道穿孔をきたした一例
第 196 回近畿外科学会, 京都, 2014. 11. 1

上田桂子, 井上修平, 北村将司, 尾崎良智
Session 1【症例呈示に基づいたパネルディスカッション】「77 歳男性 巨大な縦隔病変を伴った肺腫瘍の一例」
Chugai Lung Cancer Symposium 2014 in 滋賀, 滋賀, 2014. 11. 21

北村将司, 井上修平, 尾崎良智, 上田桂子
悪性胸膜中皮腫との鑑別を要した結核性胸膜炎の 1 例
第 84 回日本呼吸器学会近畿地方会, 第 114 回日本結核病学会近畿地方会, 奈良, 2014. 12. 13

上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平, 重森 度, 小熊哲也
気胸症例に対する 50%ブドウ糖液を用いた胸膜癒着療法の検討
第 9 回東近江総合医療センター病院研究発表会, 滋賀, 2015. 3. 7

上田桂子, 北村将司, 尾崎良智, 井上修平
第 31 回東近江総合医療センター臨床談話会, 滋賀, 2015. 3. 26

【対外活動】

<講演>

尾崎良智

結核の基礎知識と患者発生時の対応について

長浜赤十字病院院内感染防止委員会講演会, 滋賀, 2014. 5. 15

北村将司, 伊藤智美

肺結核 疾患と看護

平成 26 年度専門看護教育研修・呼吸器看護研修, 東近江, 2014. 6. 16

尾崎良智, 野原 淳, 仲川宏昭, 橋本雅之

症例呈示に基づいたディスカッション. Meet The Expert, 草津, 2014. 10. 9

尾崎良智

肺がん治療について

平成 26 年度第 2 回東近江医療圏 がん診療市民公開講座「がん治療・もっと知ろうがんのこと」
東近江, 2015. 3. 22

<記事>

井上修平

院長あいさつ

独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター広報誌「つながり」, 14 巻, 2014. 4. 30

井上修平

病院紹介シリーズ第 5 回「独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター」. めでる NPO 法人「滋賀医療人育成協力機構」広報誌, 6 巻 P14-15, 2014. 6. 1

井上修平

独滋賀医科大学開学 40 周年によせてー「不惑の年になり, 今後の展望は？」
滋賀医科大学開学四十周年記念誌, 184-185, 2014. 10. 1

井上修平

独立行政法人国立病院機構滋賀病院の改革, 結核 過去の病気ではない
中日新聞 朝刊「お元気ですか」p19, 2014. 10. 8

井上修平

2015 年新年挨拶～次の目標は外来・管理棟の建て替え!!
大風(独立行政法人国立病院機構東近江総合医療センター院内報), 117 巻, p1-2, 2015. 1. 5

井上修平

今そこにある危機と東近江総合医療センターの今後の役割!
東近江医師会報, 10 巻, p25-26, 2015. 1 月

井上修平

2015 年 新年挨拶～東近江総合医療センターの役割～
東近江総合医療センター広報誌「つながり」, 17 巻, P1-2, 2015. 1. 31

近江草津徳洲会病院 心臓血管外科

【論文】

<和文学術論文>

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, * 浅井徹

潰瘍性大腸炎に合併した感染性心内膜炎による僧帽弁閉鎖不全症に対し形成術を施行した 1 例

胸部外科 Vol. 67 No. 5 408-410 2014 年

【学会発表】

<全国大会>

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, 浅井徹

僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術の成績

第 115 回日本外科学会総会 平成 27 年 4 月 17 日 名古屋

清原由希, 武田雅子, 宇野里佳, 山本高代, 関千雅, 飯田有紀, 佐藤千春, 木脇恵子, 小池雅人, 浅井徹
早期離床困難が予想された後期高齢者の AS 患者に対してチームで取り組む早期回復管理が有効であった一例

第 42 回日本集中医療医学会学術集会 2015 年 2 月 9 日 東京

佐藤千春, 金村悦子, 木曾田晶江, 古江優子, 小林綾香, 岩島エミ, 南由衣, 瀬戸雅子, 吉川千香子, 清原由希, 関千雅, 木脇恵子, 小池雅人, 鈴木友彰, 浅井徹

チームで取り組む開腹術による腹部大動脈瘤切除後の早期回復管理ー超高齢者の腹部大動脈瘤を経験してー

第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 2015 年 2 月 12 日 神戸

<ポスター> 地方会・研究会

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, * 浅井徹

生体弁大動脈弁置換後に石灰化による弁破壊を来し再弁置換術を行った人工弁逆流の1例

第57回関西胸部外科学会学術集会 平成26年6月19日 大阪

白石昭一郎, 小池雅人, 青嶋實, * 浅井徹

僧帽弁閉鎖不全症に対する僧帽弁形成術の成績～当院における手術形式と成績～

第77回滋賀県循環器疾患研究会 平成26年12月6日 滋賀県草津市

小池雅人, 白石昭一郎, 青嶋實, 鈴木友彰, 浅井徹

超高齢者の腹部大動脈瘤に対して開腹手術を行い fast-track recovery を成し得た二症例

第77回滋賀県循環器疾患研究会 2014年12月6日 滋賀県草津市

近江八幡総合医療センター 心臓血管外科

【学会発表】

<国際学会 一般発表>

大津赤十字病院 呼吸器外科

【学会発表】

<全国学会>

高橋珠紀, 濱川瑤子, 嶋 一樹, 荏原雄一, 高橋憲一, 豊 洋次郎, 片倉浩理, 山中 晃, 酒井直樹
Mabscessus による非結核性抗酸菌症 7 例の臨床的検討

第54回日本呼吸器学会学術講演会, 大阪, 2014. 4. 25

濱川瑤子, 嶋 一樹, 高橋珠紀, 荏原雄一, 高橋憲一, 豊 洋次郎, 片倉浩理, 山中 晃, 酒井直樹 :
結核病棟を持たない市中病院で3年半の間に診断された肺外結核症例についての検討.

第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014. 4. 26, 大阪

豊 洋次郎, 片倉浩理, 山中 晃

肺動脈血管肉腫に対する右肺全摘術

第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014. 5. 29, 東京

片倉浩理, 豊 洋次郎, 山中 晃

胸腔鏡下区域切除後の右下葉切除時における気管支切断線についての考察

第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014. 5. 30, 東京

山中 晃, 片倉浩理, 高橋珠紀, 酒井直樹

肺癌二次検診 CT 施行例からみた検診評価

第55回日本肺癌学会学術集会, 2014. 11. 14, 京都

加藤大祐, 荏原雄一, 片倉浩理, 酒井直樹

化学療法が著効した肺多形癌 2 例

第55回日本肺癌学会学術集会, 2014. 11. 16, 京都

<地方会>

若月悠佑, 豊 洋次郎, 片倉浩理, 山中 晃

多発肺内転移像がみられた肺腺癌の一手術例

第105回滋賀県外科医会, 2014. 6. 7, 大津

濱川瑤子, 内藤大輔, 山本裕子, 嶋一樹, 高橋珠紀, 荏原雄一, 高橋憲一, 白瀬智之, 若月悠佑, 片倉浩理, 山中 晃, 酒井直樹

気管支鏡検査にて腺癌と診断し化学療法を行ったが奏功せず, 死後に necropsy で多形癌と診断された1例

第83回日本呼吸器学会近畿地方会, 2014. 6. 28, 姫路

若月悠佑, 内藤大輔, 山本裕子, 濱川瑤子, 嶋 一樹, 高橋珠紀, 豊 洋次郎, 荏原雄一, 高橋憲一, 片倉浩理, 酒井直樹, 山中 晃

心膜内処理を要した, 肺動脈血管肉腫右肺全摘術の1例

第100回日本肺癌学会関西支部会, 2014. 7. 5, 大阪

鎌田貴裕, 豊洋次郎, 嶋 一樹, 濱川瑤子, 高橋珠紀, 荏原雄一, 高橋憲一, 片倉浩理, 酒井直樹, 山中 晃, 石本智之, 村上 学, 松井 大, 水野 桂, 小倉啓司, 吉川義顕, 白瀬智之, 古屋充子

異なる臨床症状から診断に至った Birt-Hogg-Dube syndrome の2例

第84回日本呼吸器学会近畿地方会, 2014. 12. 13, 奈良

山本裕子, 内藤大輔, 若月悠佑, 濱川瑤子, 嶋 一樹, 高橋珠紀, 荏原雄一, 高橋憲一, 片倉浩理, 山中 晃, 酒井直樹, 高橋俊和, 小西聡史, 山本佑樹, 伊藤功朗

活動性肺結核の標準治療中にイソニアジドが原因と思われる薬剤性膵炎を発症した1例

第84回日本呼吸器学会近畿地方会, 2014. 12. 13, 奈良

【対外活動】

<講演>

山中 晃

「肺癌と縦隔腫瘍」

平成26年大津赤十字県民大学, 2013. 10. 18, 大津市ピアザ淡海

山中 晃

パネルディスカッション「がんをやっつけなくても, がんに勝つ方法を教えます」

公益財団法人日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014, 近江八幡, 2014. 10. 25

岸和田徳洲会病院 心臓血管外科

【論文】

<和文学術論文>

【学会発表】

<全国学会>

京都医療センター 呼吸器外科

【論文】

<和文学術論文>

岡本圭伍, 片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳

胸腔鏡下に診断した肝細胞癌術後胸膜・肺転移再発の1例

気管支学, 36 (5) : 525-529, 2014年9月

片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡

異時性両側肺転移を切除した胆管癌の1例

日本臨床外科学会雑誌, 75 (11) : 3002-3005, 2014年9月

MakotoMotoishi, Keigo Okamoto, Yoko Kataoka, Satoru Sawai, Mayumi Oshio, Jun Hanaoka

Low-Grade Osteosarcoma of the Lung Diagnosed at the Time of Recurrence

Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, 20(Supplement) : 595-598, 2014/12

元石 充, 岡本圭伍, 賀来良輔, 澤井 聡
孤立性小結節を呈した肺原発 diffuse large B-cell lymphoma の 1 例
日本呼吸器外科学会雑誌, 28 (1) : 85-90, 2015 年 3 月

【学会発表】

<全国学会>

元石 充, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 澤井 聡
術後約 20 年目に切除され確定診断を得た甲状腺癌孤立性肺転移の 1 例
第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

片岡瑛子, 岡本圭伍, 元石 充, 花岡 淳, 澤井 聡
右下葉気管支切除時に気管支吸引チューブを同時に切離した 1 例
第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

元石 充, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 澤井 聡
孤立性小結節を呈した肺原発 diffuse large B-cell lymphoma の 1 例
第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

片岡瑛子, 岡本圭伍, 五十嵐知之, 元石 充, 寺本晃治, 花岡 淳, 澤井 聡
末梢型肺腺癌における胸膜浸潤の病理学的検討
第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

岡本圭伍, 片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡, 葉山 学
細胞質性好中球細胞質抗体が腫瘍マーカーの様に推移した肺扁平上皮癌の 1 切除例
第 31 回日本呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

片岡瑛子, 岡本圭伍, 大塩麻友美, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳
肺癌術後異時性多発気管支内転移をきたした 1 例
第 37 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014 年 4 月, 京都

元石 充, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 澤井 聡
肺癌手術時の気管内挿管後に発症した声門下狭窄の 1 例
第 37 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014 年 4 月, 京都

岡本圭伍, 片岡瑛子, 元石 充, 澤井 聡
気管支鏡検査で診断し得た十二指腸乳頭部癌孤立性肺転移の 1 切除例
第 37 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014 年 4 月, 京都

元石 充, 岡本圭伍, 賀来良輔, 澤井 聡
皮膚病変出現 3 年後に診断した Thymoma-associated graft-versus-host-disease (GVHD)-like erythroderma の 1 例
第 55 回日本肺癌学会学術集会, 2014 年 11 月, 京都

岡本圭伍, 賀来良輔, 元石 充, 澤井 聡
肺原発淡明細胞腺癌の 1 切除例, 第 55 回日本肺癌学会学術集会, 2014 年 11 月, 京都

片岡瑛子, 岡本圭伍, 大塩麻友美, 元石 充, 花岡 淳, 澤井 聡
肺癌術後に乳腺転移をきたした 1 例
第 55 回日本肺癌学会学術集会, 2014 年 11 月, 京都

元石 充, 岡本圭伍, 賀来良輔, 澤井 聡, 三尾直士, 岡村美里
冠動脈 CT を契機に発見された肺癌症例の検討
第 55 回日本肺癌学会学術集会, 2014 年 11 月, 京都

岡本圭伍, 賀来良輔, 元石 充, 澤井 聡
呼吸器外科手術における術後心筋トロポニン I 測定の意義について
第 67 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2014 年 10 月, 福岡

【学会発表】

<国際学会>

Yo Kawaguchi, Takuya Fujita, Ryosuke Kaku, Tomoyuki Igarashi, Masayuki Hashimoto, Koji Teramoto, Jun Hanaoka, Noriaki Tezuka
Surgical treatment of elderly patients with resectable lung cancer
15th World Conference on Lung Cancer October 27-30, 2013, Sydney

<全国学会>

川口庸, 石田恵子, 賀来良輔, 橋本雅之, 大塩恭彦, 北村将司, 大内政嗣, 寺本晃治, 花岡淳, 手塚則明
術後呼吸機能に影響を与える因子についての検討
第113回日本外科学会定期学術集会, 福岡, 2013年4月

川口庸, 朝倉庄志
横隔膜下膿瘍を合併した急性膿胸の1例
第30回日本呼吸器外科学会総会, 名古屋, 2013年5月

川口庸, 朝倉庄志
Flail chest に対し胸腔鏡下に Chest way を挿入し, 胸郭の固定を行った一例
第36回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 大宮, 2013年5月

川口庸, 藤田琢也, 寺本晃治, 花岡淳
Cystic thymoma の1切除例
第33回胸腺研究会, 東京, 2014年2月

公立八鹿病院 呼吸器外科

【論文】

<和文学術論文>

寺下 聡, 辻本大起, 杉山陽介, 塩田哲広, 胸水中adenosine deaminaseが高値を示し局所麻酔下胸腔鏡検査で診断確定した悪性胸膜中皮腫の1例 日本呼吸器学会誌 4 (1) 72~75, 2015

【学会発表】

<全国学会>

寺下 聡, 杉山陽介, 辻本大起, 塩田哲広
Flush Knifeを用いた局所麻酔下胸腔鏡下胸膜生検法の検討
第37回日本呼吸器内視鏡学会博術総会, 2014. 4. 14. 京都市

塩田哲広, 寺下 聡, 杉山陽介, 辻本大起
膿胸治療にいける局所麻酔下胸腔鏡の意義.
第37回日本呼吸器内視鏡学会博術総会, 2014. 4. 14. 京都市

寺下 聡, 杉山陽介, 塩田哲広
Bf-NAVIにより責任気管支が同定できなかった末梢小型肺野病変に対する気管支鏡検査の意義
第54回日本呼吸器学会総会, 2014. 4. 25. 大阪市

塩田哲広, 辻本大起, 杉山陽介, 寺下 聡
胸腺腫術後に両側横隔神経麻痺を来した一例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014. 5. 30. 東京

塩田哲広, 杉山陽介, 寺下 聡, 余根田和弘, 和田和久
悪性胸水の診断における細胞診と局所麻酔下胸腔鏡検査の意義
第55回日本臨床細胞学会総会, 2014. 6. 7. 横浜市

<地方会・研究会>

辻本大起, 澤渡友紀, 杉山陽介, 寺下 聡, 塩田哲広

肺小細胞癌化学療法放射線治療施行中に喘鳴、呼吸困難を訴えて58歳、男性
第3回円山川カンファレンス。2014. 5. 15. 豊岡市

塩田哲広、辻本大起、澤渡友紀、杉山陽介、寺下 聡
両肺野の多発する小結節陰影で肺結核が疑われた84歳、男性
第3回円山川カンファレンス。2014. 5. 15. 豊岡市

澤渡友紀、辻本大起、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
前胸部の膨隆と皮疹にて来院した78歳、男性
第3回円山川カンファレンス。2014. 5. 15. 豊岡市

辻本大起、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
局所麻酔下胸腔鏡下にタルク注入を施行した2例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 6. 28. 姫路市

辻本大起、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
CTガイド下生検時人工気胸で肺損傷を回避できた肺小細胞癌の一例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 6. 28. 姫路市

塩田哲広、辻本大起、杉山陽介、寺下 聡、田原医院 田原 徹、中村栄男
腋窩リンパ節の急速な増大を来した加齢性EBV関連B細胞増殖異常症の一例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 6. 28. 姫路市

杉山陽介、辻本大起、寺下 聡、塩田哲広、小出 隆、北村幸郷、林一彦
前胸部の腫瘤と皮疹にて発見されたびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の一例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 6. 28. 姫路市

寺下 聡、辻本大起、杉山陽介、塩田哲広
局所麻酔下胸腔鏡による膿胸郭清術が奏功した急性膿胸の一例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 6. 28. 姫路市

寺下 聡、伊藤誠二、杉山陽介、塩田哲広
CTガイド下心嚢ドレナージを施行した3症例
NPO法人西日本呼吸器内科推進機構平成26年度夏季学術集会 2014. 7. 26.
京都市

関 美和子、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
食道癌術後胃管・気管瘻に対してステント留置が有効であった一例
第119回兵庫県肺癌懇話会。2014. 11. 26. 神戸市

伊藤誠二、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
局所麻酔下胸腔鏡検査で結核性胸膜炎と診断した95歳、男性
第96回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会。2014. 11. 29. 大阪市

寺下 聡、伊藤誠二、杉山陽介
塩田哲広心タンポナーデに対してCTガイド下心嚢ドレナージが有用であった3症例
第84回日本呼吸器学会近畿地方会。2014. 12. 13. 奈良市

杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広
気管狭窄に対するステント留置術前後のモストグラフの変化
NPO法人西日本呼吸器内科推進機構 平成27年第10期総会 2015. 2. 28. 京都

塩田哲広
ザーコリが著効したALK陽性肺癌の1例
但馬内科Joint Conference 2015. 3. 4. 豊岡

合田菜穂、伊藤誠二、杉山陽介、寺下 聡、塩田哲広、大林千穂
健診にて発見された肺リンパ腫様肉芽腫症の1例
第207回日本内科学会近畿地方会 2015. 3. 7. 大阪

塩田哲広
クリゾチニブが著効した肺癌多発脳転移の一例 第120回兵庫県肺癌懇話会 2015. 3. 11. 神戸市

【対外活動】

<講演>

塩田哲広

COPD治療の展望

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 社内研修会 2014. 4. 8. 養父市

塩田哲広

ハイドレーション時の輸液の使い方に関する知識

大塚製薬工場社内研修会 2014. 7. 25. 神戸市

塩田哲広

喘息の病態と治療

ノバルティスファーマ社内研修会. 2014. 8. 28. 豊岡市

塩田哲広

進化する肺がん個別化治療

第13回南但地域医療連携研究会 特別講演 2014. 9. 25. 養父市

塩田哲広

禁煙・そして肺癌制圧への一里塚

兵庫県健康財団 住民健診担当者会議 特別講演 2015. 2. 27. 養父市

塩田哲広

気管支喘息・COPD診療の多様性. 赤相薬剤師会勉強会 特別講演 2014. 11. 20. 赤穂市

塩田哲広

喘息治療の展望. 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 社内研修会 2014. 12. 16. 養父市

国立病院機構南京都病院 呼吸器外科

【論文】

<著者>

元石 充, 岡本圭伍, 片岡瑛子, 澤井 聡, 大塩麻友美, 花岡 淳

Low-Grade Osteosarcoma of the Lung Diagnosed at the Time of Recurrence

Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Vol. 20, 2014 年 12 月

【学会発表】

片岡瑛子, 岡本圭伍, 大塩麻友美, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳

肺癌術後異時性多発気管内転移をきたした1例

第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014 年 4 月, 京都

片岡瑛子, 岡本圭伍, 大塩麻友美, 元石 充, 澤井 聡, 花岡 淳

胸腺癌術後に乳腺転移をきたした1例, 第55回日本肺癌学会総会, 2014 年 11 月, 京都

医仁会武田総合病院 呼吸器外科

【学会発表】

鈴木雄治, 石田 恵子

Covered Ultraflex 留置後5日目にステントが自然喀出された1例

第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 2014 年 4 月, 京都

鈴木雄治, 石田 恵子

化学療法19コース施行後サルベージ手術を施行した非小細胞肺癌の1例

第31回日本気呼吸器外科学会総会, 2014 年 5 月, 東京

鈴木雄治, 石田 恵子
前縦隔巨大腫瘍に対し硬膜外麻酔下に腫瘍生検を施行した1例
第31回日本気呼吸器外科学会総会, 2014年5月, 東京

石田 恵子, 鈴木雄治
原発性肺癌との鑑別を要した悪性リンパ腫肺転移の1手術例
第31回日本気呼吸器外科学会総会, 2014年5月, 東京

石田 恵子, 鈴木雄治
びまん性胸腔内出血を認めた悪性胸膜中皮腫の1手術例
第55回日本肺癌学会総会, 2014年11月, 京都

医療法人社団 医伸会のじまバスキュラーアクセスクリニック

【論文】

<学術論文>

野島武久, 本宮康樹

過剰血流に対する血流制御術式 Graft Inclusion
Technique の複雑病変への応用 腎と透析 Vol.77 P65-67 2014

【学会発表】

<全国学会>

野島武久, 井出孝夫, 本宮康樹

術者単独で行う end-to-side ,parachute technique での AVF
第18回日本アクセス研究会学術集会総会, 徳島市, 2014. 11. 29

野島武久, 井出孝夫, 本宮康樹

術者単独での AVG 作製で手術の質を確保するための工夫
第18回日本アクセス研究会学術集会総会, 徳島市, 2014. 11. 29

野島武久, 本宮康樹, 井出孝夫

血栓閉塞内シャントに対する治療法の工夫と変遷
第20回バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会, 東京, 2015. 3. 7

<地方会・研究会>

野島武久

AVG 作製後急性閉塞に対して VAIVT を行った症例
第2回関西 VAIVT セミナー, 2014. 9. 27

野島武久

ご紹介いただいた症例から透析シャントを考える
第3回地域のシャントを考える会, 神戸, 2014. 10. 25

野島武久

透析シャントエコーへの誘い
第3回地域のシャントを考える会, 神戸, 2014. 10. 25

野島武久, 本宮康樹, 井出孝夫

血栓閉塞 AVF/AVG に対する治療法の工夫と変遷
第2回大阪 VAIVT 研究会, 大阪, 2015. 3. 28

【対外活動】

<講演>

野島武久 バスキュラーアクセスシミュレータートレーニング TERUMO Simulation Seminar in
KOBE , 神戸, 2014. 5. 18

野島武久

総合司会 第3回兵庫 VAIVT カンファレンス, 神戸市, 2014. 7. 3

野島武久
バスキュラーアクセスの作製・修復・合併症治療～透析患者さんと共に考え共に守る～
第 5 回倉吉透析バスキュラーアクセスインターベンション治療研究会
特別講演, 鳥取県, 2014. 9. 4

野島武久
Arteriovenous graft における最近の知見
第 55 回日本脈管学会総会 イブニングセミナー, 岡山, 2014. 10. 30

野島武久
バスキュラーアクセス治療への工夫 -透析患者さんと共に考え共に守る-
熊本腎とアクセスセミナー, 2014. 11. 15
特別講演

野島武久
私の目指す VAIVT と OPE～VAIVT と OPE の相補領域・限界領域への取り組み
第 18 回日本アクセス研究会学術集会総会 ランチョンセミナー, 徳島市, 2014. 11. 29

野島武久
バスキュラーアクセスの歴史的変遷と現況
第 40 回明石・西神戸透析懇話会 講演, 神戸, 2015. 2. 14

びわこ学院大学・しんや医院

【論文】
<著書>

【対外活動】
<講演>

横浜総合病院ハートセンター 心臓血管外科

【学会発表】
<全国学会>
菊池恭太, 東田隆治, 李家中豪, 牧野陽二郎, 小宮宏一郎, 高相晶士
難治性足潰瘍に対するprophylactic surgeryの有用性
第6回 日本下肢救済・足病学会 2014. 6. 28 札幌

阿部翔悟, 武田直人, 久保雅昭, 菊池恭太, 東田隆治
創傷ケアセンター患者における入院前および退院時歩行維持率について
第6回 日本下肢救済・足病学会 2014. 6. 28 札幌

<地方会・研究会>
東田隆治
シンポジウム PAD治療におけるマゴットセラピーの位置づけ 血管外科の立場から
第3回 マゴットセラピー研究会 2014. 4. 19 湘南鎌倉

飛田昌寛, 武田直人, 阿部翔悟, 田中さわ, 久保雅昭, 菊池恭太, 東田隆治
糖尿病を有する再発を繰り返す下肢慢性創傷患者の前頭葉機能について
第11回 ミレニア創傷ケア研究会 2014. 11. 14 岡山

【対外活動】
<講演>
東田隆治

～抗MRSA薬をどう使い分けるか～糖尿病性足病変の使用経験
MRSA感染症セミナー 2014.7.9 横浜

東田隆治, 青島昭裕, 菊池恭太, 村上千恵子
足を救う～一人でも多くの足を救うためにできること～
横浜総合病院創傷ケアセンター講演会 2015.3.7 あざみ野

洛和会音羽病院 呼吸器

【論文】

<学術論文>

長坂行雄, 土谷美知子, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 堀哲雄, 一瀬増太郎
呼吸器疾患のプライマリケア
洛和会病院医学雑誌, Vol.25, Page18-22, 2014年

【学会発表】

<国際学会>

Yukio Nagasaka, Michiko Tsuchiya, Chikara Sakaguchi, Takuma Minami, Ryota Kominami, Yosuke Nakanishi, Takanori Ara, Tetsuo Hori, Masutaro Ichinose
Sound spectrographic analysis of vocal fremitus (VF)
39th international lung sounds association conference, 2014/10/11, Boston, Massachusetts, USA

Michiko Tsuchiya, Yukio Nagasaka, Chikara Sakaguchi, Takuma Minami, Ryota Kominami, Yosuke Nakanishi, Takanori Ara, Tetsuo Hori, Masutaro Ichinose
Sound spectrographic characteristics of fine and coarse crackles
39th international lung sounds association conference, 2014/10/10, Boston, Massachusetts, USA

<全国学会>

一瀬増太郎, 堀哲雄

嚢胞内に粘液貯留を伴った成人の先天性嚢胞性腺腫様奇形の1手術例
第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京都

堀哲雄, 一瀬増太郎

経鼻胃管誤挿入による右気胸に対して胸腔鏡下手術を施行した1例

第31回日本呼吸器外科学会総会, 2014年5月29日, 東京都

一瀬増太郎, 堀哲雄, 小南亮太, 南卓馬, 坂口才, 土谷美知子

術前に肺腺癌の診断が可能であったMucinous (“colloid”) adenocarcinomaの1切除例

第55回日本肺癌学会総会, 2014年11月14日, 京都市

堀哲雄, 荒隆紀, 中西陽祐, 小南亮太, 南卓馬, 坂口才, 土谷美知子, 一瀬増太郎

縦隔浸潤を有するIIIA期LCNECに対し集学的治療を行った一例

第55回日本肺癌学会総会, 2014年11月16日, 京都市

土谷美知子, 長坂行雄, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 荒隆紀, 井上実緒, 堀哲雄, 一瀬増太郎

fine cracklesとcoarse cracklesの音響的な特徴とその可視化

第51回日本臨床生理学会総会, 2014年11月7日, 東京都

長坂行雄, 土谷美知子, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 荒隆紀, 井上実緒, 堀哲雄, 一瀬増太郎

声音振盪のサウンドスペクトログラムによる検討

第51回日本臨床生理学会総会, 2014年11月7日, 東京都

荒隆紀, 土谷美知子, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 堀哲雄, 一瀬増太郎, 井上実緒, 長坂行雄

肺音解析による間質性肺炎の悪化, 改善の評価
第51回日本臨床生理学会総会, 2014年11月7日, 東京都

小南亮太, 南卓馬, 坂口才, 土谷美知子, 堀哲雄, 一瀬増太郎, 久保聡一, 長坂行雄
当院における特発性気道出血症例の検討 患者背景, 出血源, 治療方法と結果について
第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014年4月27日, 大阪市

南卓馬, 土谷美知子, 小南亮太, 坂口才, 堀哲雄, 一瀬増太郎, 西村啓介, 安井寛, 長坂行雄
両側肺野のびまん性スリガラス状陰影と散在性の浸潤影を呈した1例
第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014年4月27日, 大阪市

Michiko Tsuchiya, Chikara Sakaguchi, Takuma Minami, Ryota Kominami, Tetsuo Hori, Masutaro
Ichinose, Yukio Nagasaka
Lung sounds in central airways narrowing
第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014年4月26日, 大阪市

Chikara Sakaguchi, Michiko Tsuchiya, Takuma Minami, Ryota Kominami, Tetsuo Hori, Masutaro
Ichinose, Yukio Nagasaka 1), Mio Inoue, Takeshi Yamazaki, Atsushi Haghio2)
Symptoms and physiological parameters in 6MWT in COPD patients: importance of cardiac
co-morbidity
第54回日本呼吸器学会学術講演会, 2014年4月26日, 大阪市

< 地方会・研究会 >

森川彰貴, 小南亮太, 土谷美知子, 南卓馬, 坂口才, 荒隆紀, 中西陽祐, 長坂行雄, 一瀬増太郎,
堀哲雄

気管支鏡後に結節が薄壁空洞化した肺多形癌の1例
第40回京都医学会, 2014年9月28日, 京都市

中西陽祐, 荒隆紀, 南卓馬, 小南亮太, 坂口才, 土谷美知子, 長坂行雄, 堀哲雄, 一瀬増太郎, 高松輝行,
西村啓介, 安井寛

閉塞性換気障害を呈したmulti-centric Castleman病の1例
第83回日本呼吸器学会近畿地方会, 2014年6月28日, 神戸市

【対外活動】

< 講演 >

一瀬増太郎

患者の負担を軽くする肺がんの外科治療-胸腔鏡下手術の実際-
第2回おとわ医療セミナー, 2014年5月17日, 京都市

森川彰貴, 土谷美知子, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 荒隆紀, 長坂行雄, 一瀬増太郎, 堀哲雄,
安井寛

気管支鏡後に薄壁空洞化した肺多形癌の一例
第84回日本呼吸器学会近畿地方会, 2014年12月13日, 奈良市

長坂行雄, 土谷美知子, 荒隆紀, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 泉谷梓, 井上実緒, 一瀬増太郎,
堀哲雄

声音振盪にはなぜ「ひと〜つ」が使われるのか
第39回肺音(呼吸音)研究会, 2014年10月26日, 奈良市

土谷美知子, 荒隆紀, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 泉谷梓, 井上実緒, 一瀬増太郎, 堀哲雄, 長
坂行雄

クラックルのサウンドスペクトロメータ解析: ファインとコースの特徴と差異
第39回肺音(呼吸音)研究会, 2014年10月26日, 奈良市

泉谷梓, 荒隆紀, 坂口才, 南卓馬, 小南亮太, 中西陽祐, 土谷美知子, 井上実緒, 一瀬増太郎, 堀哲雄, 長
坂行雄

肺音解析による間質性肺炎の治療効果の評価
第39回肺音(呼吸音)研究会, 2014年10月26日, 奈良市

